

学校行事、クラブ活動及び デジタル学習基盤の活用等について



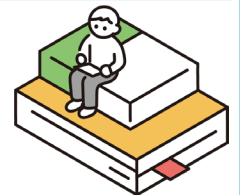
1. 学校行事等について

「道徳」、「総合」、「特活」の関係について(イメージ)

※ 関係WGでの議論を踏まえて一部修正

「道徳」、「総合」、「特活」の三者の関係と、「総合」と「特活」の両者の境目が曖昧となり、それぞれの特質を踏まえた教育活動が必ずしも行われていない課題がある中で、相互の関係性について以下のとおり整理してはどうか。

- 「総合」と「特活」は、自己の興味・関心に関わる課題や学級・学校や自己の生活に関わる課題、すなわち「生きた課題」に取り組む特質を有していることから、よりよく生きるための基盤としての道徳性の発揮が期待される、道徳教育の「実践の場」と整理できるのではないか。
- 「総合」と「特活」双方の特質を有する取組は、現行学習指導要領でも想定されているものの(※)、「総合の時間が安易に行事に使われている」との指摘もある中、分かりやすい整理を行うべきではないか(詳しくは今後のWGで検討)。



(※)総則第2, 3(2)エ



自らの人生を舵取りする力

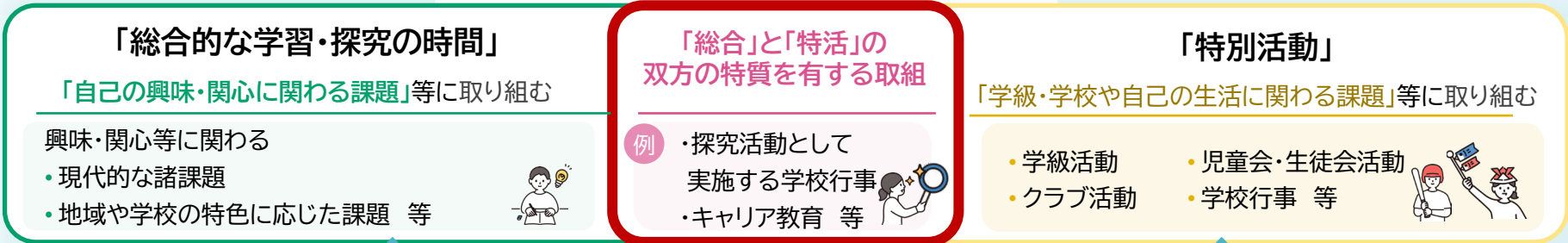
と

民主的で持続可能な社会の創り手

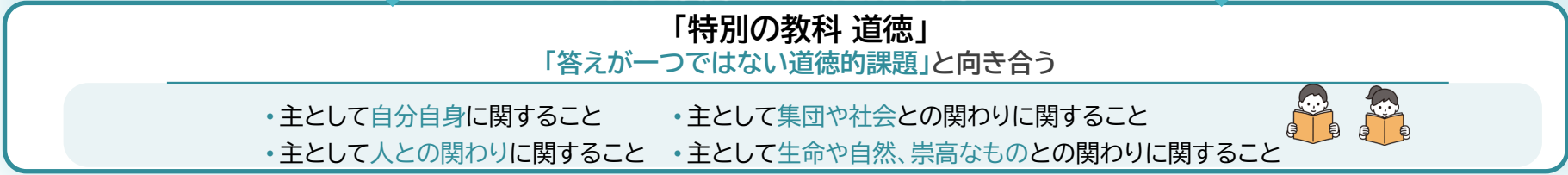
の育成



「好き」を育み、「得意」を伸ばす × 当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる



実社会・実生活との「生きた関係」に根差した道徳教育の「実践の場」
 内面的資質としての「道徳性」を養う



※道徳教育は、特別の教科 道徳を要として各学校の教育活動全体を通じて行う

具体的論点（案）

1. 「好きや得意」「対話と合意」等から見た特別活動と総合の関係性 【補足イメージ1】 ※総合WGでも4/15に検討

- 第5回特別活動WGでは、特別活動の
 - ✓ ①学級経営（教育課程全体がより柔軟化していく中であって欠くことのできない『軸』の1つ）の核、
 - ✓ ②生徒指導（第1層「発達支持的生徒指導」）の核、
 - ✓ ③特別支援教育（重層的な指導・支援の第1層「多様性・包摂性を尊重した生活づくり」）の核としての位置付けが議論され、特別活動が果たす「確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤」（論点整理）として、各教科等との連携の中で果たしていく役割の一側面が具体的な機能として示されたところ。
- こうした、各教科等を含む学校教育活動全体の安定を支える、特別活動の教育課程上の基盤性が一層明らかになる中で、例えば学校行事を単発のイベントとしてではなく、日常の学びや自己の興味・関心と社会とをつなぐ「舞台」として位置付けるなど、「好きや得意」「対話と合意」に向け、特別活動を基盤・舞台とした総合との一層の連携の可能性を検討してはどうか。

2. 学校行事と総合との関係の一層の明確化 【補足イメージ2】 ※総合WGでも4/15に検討

- 総合における学習活動で学校行事に代替できる場合について、
 - ✓ 現行の総則や総合の解説では、総合と特別活動の両方の目標を踏まえることを前提として、
 - ・ 代替を認めている例示として、修学旅行や自然体験活動などの「旅行（遠足）・集団宿泊的行事」、職場体験活動やボランティア活動などの「勤労生産・奉仕的行事」のみが挙げられていること
 - ・ 代替が認められない例示として、「文化的行事」や「健康安全・体育的行事」の準備が挙げられていること（※）平成20年改訂以降共通の整理
 - ✓ それにも拘わらず、解説の記載が一定の曖昧さを残していることと相まって、現状でも学校によって総合の本来の趣旨とは距離のある様々な活動に総合の時数が充てられている事例が見られることを踏まえ、総合の実施で代替できる具体的なケースや代替する場合の留意事項を一層分かり易く示すべきでないか。
- （※）代替しなければならない訳ではなく、あくまでも代替することが「できる」との取扱いであることに留意。
- 具体的には、現行の解説の整理等を踏まえ、以下のような取扱いを明確化し、解説等で詳細を示すこととしてはどうか。
 - ✓ 総合で学校行事を代替できるかどうかは、総合及び特別活動の目標・内容に照らした学習の実態で判断すること
 - ✓ その上で、①「儀式的行事」、②「文化的行事」「健康安全・体育的行事」の準備（学習発表会を除く）については、総合で代替しないことを原則とすること
 - ✓ 総合の目標や学習過程を踏まえて実施される「旅行（遠足）・集団宿泊的行事」、「勤労生産・奉仕的行事」については、探究として成立する部分について代替を可能とすること

具体的論点（案）

3. 修学旅行、職場体験等を探究として実施する場合のイメージ 【補足イメージ3】※総合WGでも4/15に検討 【補足イメージ4】

- 特別活動と総合との一層の連携の視点を踏まえ、修学旅行や職場体験、インターンシップ等の機会を生かし、充実した質の高い探究として実施する場合の在り方について、具体的なイメージを示してはどうか。
- その際、とりわけ中学校については、小・高と比較しても、総合の本来の趣旨とは距離のある活動が多いとの指摘もある中で、質の高い探究の実現に向けた多様な選択肢の1つとして、総合と学校行事との連携のイメージや事例等を、解説や指導資料等を通じて参考として提供してはどうか。

(※) 探究として実施する場合にも、学校行事である以上、特別活動の目標に定める資質・能力の育成を目指すものでもあることが前提

(※) 総合の内容は各学校が定めることとしており、あくまでも検討にあたっての参考資料という位置付けであることに留意

- 更に、特活と総合の連携の観点から学校行事を見た場合、学校行事を総合の活動をもって代替する場合や、総合における探究と連携した活動として実施する場合においては、学校行事が総合と特活の双方の視点を有する活動として実施されることとなる。
- その際、「特活と総合の双方の目標に照らした活動」に必要な視点について、学校の参考となる考え方を示してはどうか。
(総合で代替する場合や連携した活動として実施する場合の具体的な事例等は、解説において示す)
 - ✓ 総合の視点（探究として成立している必要）
 - ✓ 特活の視点（子供が主体的に創造する集団活動として成立している必要）

4. 学校行事を通じた「好きや得意」の発表の機会の明確化 【補足イメージ5】※総合WGでも4/15に検討

- 今次改訂で「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」ことを掲げる中、各教科での探究的な要素を持つ学びにおいて見出された興味・関心や好奇心の芽を、総合やクラブ活動、更には裁量的な時間において育むことが可能な方向で検討が進む一方、こうした学習の成果を学校内外に発信する機会（真正な学びに繋がる発表の舞台）は限られている。
- このため、「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」教育を推進する観点から、学校行事の内容である「(2) 文化的行事」の名称に、現行の解説でも具体例として挙げられている学習発表会の要素を追加し、「文化・学習発表的行事（仮称）」とすることで、地域社会や社会教育部局等とも連携しつつ、「好きや得意」の更なる伸長に繋げる観点から、選択肢の明確化を図ってはどうか。

具体的論点（案）

5. 「好きや得意」「対話と合意」を具現化する特活と総合の関係と役割【補足イメージ6】

- 特活と総合は、それぞれ「学級・学校や自己の生活に関わる課題」「自己の興味・関心に関わる課題」を主たる対象としているが、両者のカリキュラム上の一層の連携の可能性として、学校行事やキャリア教育について、議論されてきた。
- また、「思考・判断・表現」の学習過程として、総合では「探究」、特別活動では「合意形成」「意思決定」が議論され、「学びに向かう力・人間性等」の一環として「自己の生き方についての考えを深める」ことが整理されてきた。
- こうしたことを踏まえた、特別活動と総合のカリキュラム上の連携のイメージとして、例えば以下のとおり示することができるのではないかと。
 - ✓ 総合での探究を通じて育んだ問題意識や価値観に照らして、特別活動の合意形成にかかる議題を提起したり、進路を意思決定したりする（「探究」が「合意形成」「意思決定」に寄与）
 - ✓ 特活での合意形成や意思決定を通じて育んだ興味関心や問題意識に照らして、自己の生き方に関わる探究の課題を設定する（「合意形成」「意思決定」が「探究」に寄与）
 - ✓ 学校行事を自己の興味・関心と社会とをつなぐ「舞台」として、特活と総合が連携
 - ✓ 総合等を実践の場、特別活動を「要」として、キャリア教育を推進

6. 道徳科と特別活動との連携【補足イメージ7】

- 各教科等の中でもとりわけ特別活動は、学校を身近な社会と捉え、「合意形成」や「意思決定」のプロセスを通じて、実社会・実生活をよりよいものに創りかえていく特質を有しており、多様な価値観を有する他者との協働を通じて、内面的資質としての道徳性を養う道徳教育と深い関わりがある。
- また、「複数時間」と相まって更なる充実が期待される「問題解決的な学習」では、「自己内葛藤（価値と自己との葛藤）」や「価値の対立（複数の価値間の葛藤）」と向き合うことを例示しており、こうした活動を通じた学びが、特別活動における「個人の意思決定」や「集団の合意形成」における道徳的実践に活かされるとともに、こうした実践が、道徳的諸価値に関わる考えの深まりに資することが期待される。
- このため、学校現場の実践の改善に加え、関連の研究の推進にも資する観点から、道徳科での学びと特別活動での学びの有機的な関係性や優れた取組事例等を参考資料等の形で分かりやすく示してはどうか。

具体的論点（案）

7. 子供たちが創造する活動としての学校行事の位置付け

- 論点整理では、学校行事について「各行事の特質や教師の過度な負担を生じさせない観点を踏まえつつ、子供たちが創造する活動である旨をより明確にすべき」とされ、これを踏まえ、第4回WGでは、学校行事の高次の資質・能力について、「よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造する」ことを明記することが議論された。

学校行事の「高次の資質・能力」（中学校）

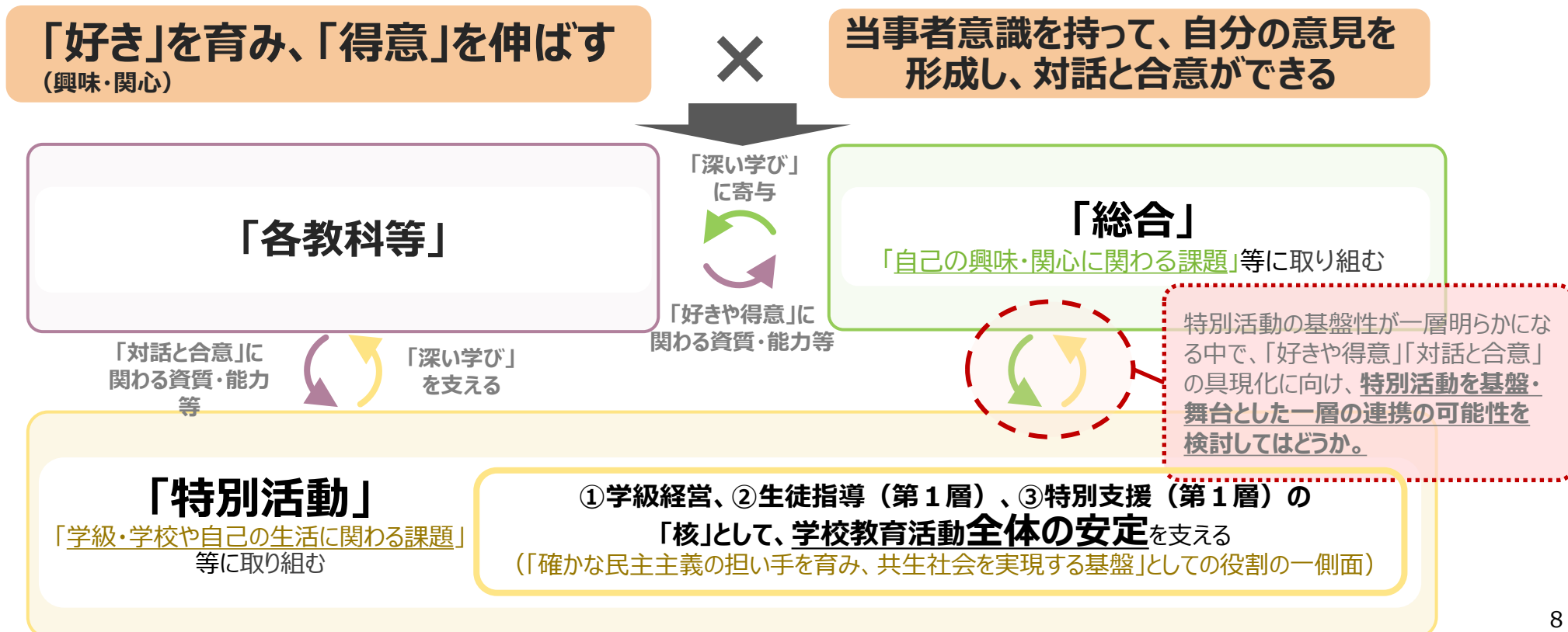
全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする
- 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

- 特別活動が確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤を提供する領域としての役割を果たしていくにあたって、子供たちが学校行事の意義を理解し、企画や運営に関わることを含めて主体的に役割を担い、協働しながらよりよい学校行事を創造することは重要である一方、あくまでも学校教育活動の一環であることから、以下の留意点が踏まえられよう、内容の取扱いや解説等で記載することとしてはどうか。
 - ✓ 安全の確保等を含め、学校教育活動としての教師の適切な指導のもとで活動が実施されることが必要であること
 - ✓ 学校行事の目的や教育的意義、発達の段階や学校の実態を踏まえる必要があること
 - ✓ 教師の過度な負担を生じさせない観点を踏まえる必要があること

「好きや得意」「対話と合意」等から見た特別活動と総合の関係性（イメージ）

- 第5回特別活動WGでは、特別活動の
 - ✓ ①学級経営（教育課程全体がより柔軟化していく中であって欠くことのできない『軸』の1つ）の核、
 - ✓ ②生徒指導（第1層「発達支持的生徒指導」）の核、
 - ✓ ③特別支援教育（重層的な指導・支援の第1層「多様性・包摂性を尊重した生活づくり」）の核
 としての位置付けが議論され、特別活動が果たす「確かな民主主義の担い手を育み、共生社会を実現する基盤」（論点整理）としての役割の一側面が具体的な機能として示されたところ。
- こうした、学校教育活動全体の安定を支える、特別活動の教育課程上の基盤性が一層明らかになる中で、例えば学校行事を単発のイベントとしてではなく、日常の学びや自己の興味・関心と社会とをつなぐ「舞台」として位置付けるなど、「好きや得意」「対話と合意」に向け、特別活動を基盤・舞台とした総合との一層の連携の可能性を検討してはどうか。



学校行事と総合との関係の一層の明確化（イメージ）

- 総合における学習活動で学校行事に代替できる場合について、
 - ✓ 現行の総則や総合の解説では、**総合と特別活動の両方の目標を踏まえることを前提**として、
 - **代替を認めている例示**として、修学旅行や自然体験活動などの「**旅行（遠足）・集団宿泊的行事**」、職場体験活動やボランティア活動などの「**勤労生産・奉仕的行事**」のみが挙げられていること
 - **代替が認められない例示**として、「**文化的行事**」や「**健康安全・体育的行事**」の準備が挙げられていること ※平成20年改訂以降共通の整理
 - ✓ それにも拘わらず、解説の記載が一定の曖昧さを残していることと相まって、現状でも学校によって「**総合の本来の趣旨とは距離のある様々な活動に総合の時数が充てられ**」ている事例が見られること
を踏まえ、**総合の実施で代替できる具体的なケースや代替する場合の留意事項を一層分かり易く示す**べきでないか。
- 具体的には、現行の解説の整理等を踏まえ、以下のような取扱いを明確化し、解説等で詳細を示すこととしてはどうか。
 - ✓ **総合で学校行事を代替できるかどうかは、総合及び特別活動の目標・内容に照らした学習の実態で判断**すること
 - ✓ その上で、①「**儀式的行事**」、②「**文化的行事**」「**健康安全・体育的行事**」の準備（学習発表会を除く）については、**総合で代替しないことを原則**とすること
 - ✓ **総合の目標や学習過程を踏まえて実施される「旅行（遠足）・集団宿泊的行事」、「勤労生産・奉仕的行事」については、探究として成立する部分について代替を可能**とすること

	儀式的行事	文化的行事	健康安全・体育的行事	旅行（遠足）・集団宿泊的行事	勤労生産・奉仕的行事
	入学式、卒業式、始業式・終業式など	文化祭、学習発表会、音楽鑑賞会など	運動会・体育祭、避難訓練、交通安全指導など	遠足、修学旅行、野外活動、集団宿泊活動など	ボランティア活動、職場体験活動、就業体験活動など
総合による代替（現行整理の明確化）	原則不可	準備・練習等は原則不可		探究として成立する部分のみ可（学校行事の目標を踏まえた活動が前提）	
代替が認められる例		<ul style="list-style-type: none"> ● 総合で実施する探究と関連付けて行事を実施する場合（地域の安全をテーマとする探究の一環として交通安全教室を実施する等） ● 探究の成果発表の場として学習発表会の準備等を行う場合（文化祭と併せて総合の成果発表を実施する場合の、当該活動に係る部分（成果の整理等）を含む） 		<ul style="list-style-type: none"> ● 自己の生き方に関わる学習課題を児童生徒が設定する、学習課題の解決に必要な計画を児童生徒が立てるなど、総合の目標や学習過程を踏まえた探究として実施する場合 （例えば事前・事後の学習の一部を総合で代替すること等が考えられるが、詳細は解説で記載。） 	

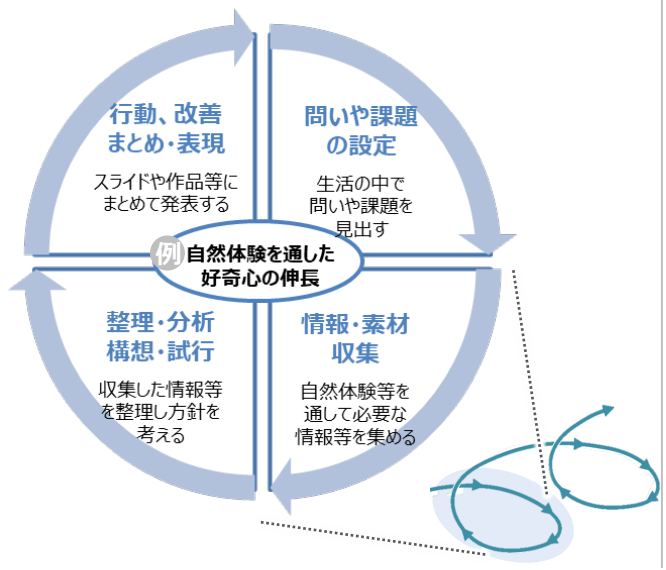
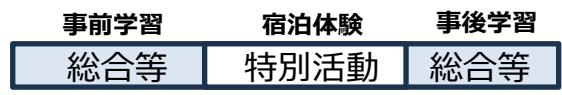
(※1) 学校における計画作成の際の参考となるよう、詳細や小学校・中学校・高校それぞれの具体例については別途解説等で示す

(※2) 形式的に探究のプロセスに位置付ける、といった形式主義にならないよう、また新たな負担感につながらないよう、総合で学校行事を代替するための追加書類の作成等の要件は求めないが、総合として実施する正当性を明確にする観点から、総合の年間指導計画に位置付けられていること

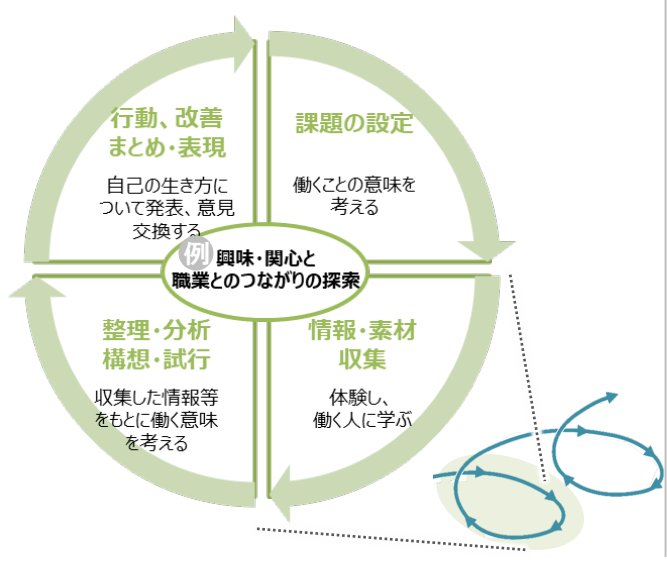
修学旅行、職場体験等を探究として実施する場合のイメージ

- 特別活動と総合との一層の連携の視点を踏まえ、**修学旅行や職場体験、インターンシップ等の機会を生かし、充実した質の高い探究として実施する場合の在り方について、具体的なイメージを示してはどうか。**
 - その際、とりわけ中学校については、小・高と比較しても、**総合の本来の趣旨とは距離のある活動が多い**との指摘もある中で、**質の高い探究の実現に向けた多様な選択肢の1つとして、総合と学校行事との連携のイメージや事例等を、解説や指導資料等を通じて参考として提供してはどうか。**
- (※) 探究として実施する場合にも、学校行事である以上、特別活動の目標に定める資質・能力の育成を目指すものでもあることが前提
(※) 総合の内容は各学校が定めることとしており、あくまでも検討にあたっての参考資料という位置付けであることに留意

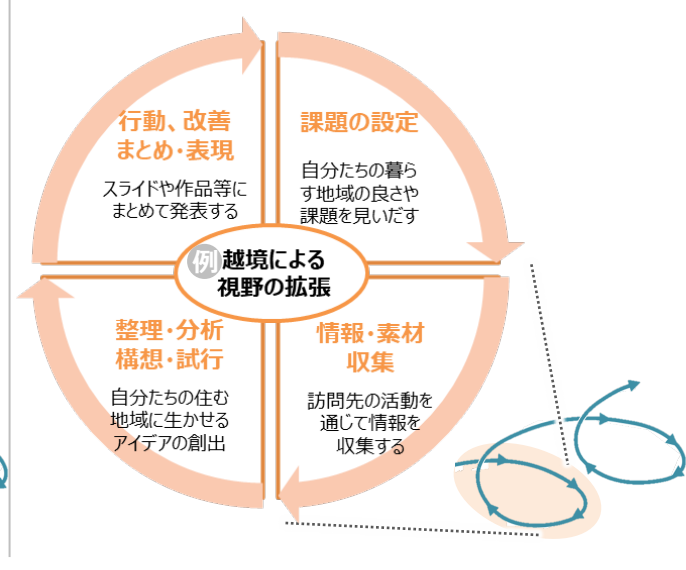
1. 宿泊体験×探究 (自然探究／オリエンテーション探究)



2. 職場体験×探究 (キャリア探究)



3. 修学旅行×探究 (越境探究)



※例えば学校行事を、探究における情報の収集の場として位置付けたり、特別活動の体験を通して探究の課題設定につなげたりすることが考えられる
※事前・事後学習は探究として成立する部分のみ代替できる ※図はあくまでも探究としてのイメージであり、特別活動として学校行事を捉えた際には別の見え方になることに留意

総合と特別活動の双方の視点から見た学校行事について (修学旅行／職場体験の例)

- **特活と総合の連携**の観点から学校行事を見た場合、**学校行事を総合の活動をもって代替する場合や、総合における探究と連携した活動として実施する場合においては、学校行事が総合と特活の双方の視点を有する活動として実施**されることとなる。
- その際、「**特活と総合の双方の目標に照らした活動**」に必要な視点について、以下のように学校の参考となる考え方を示してはどうか。
(総合で代替する場合や連携した活動として実施する場合の具体的な事例等は、解説において示す)

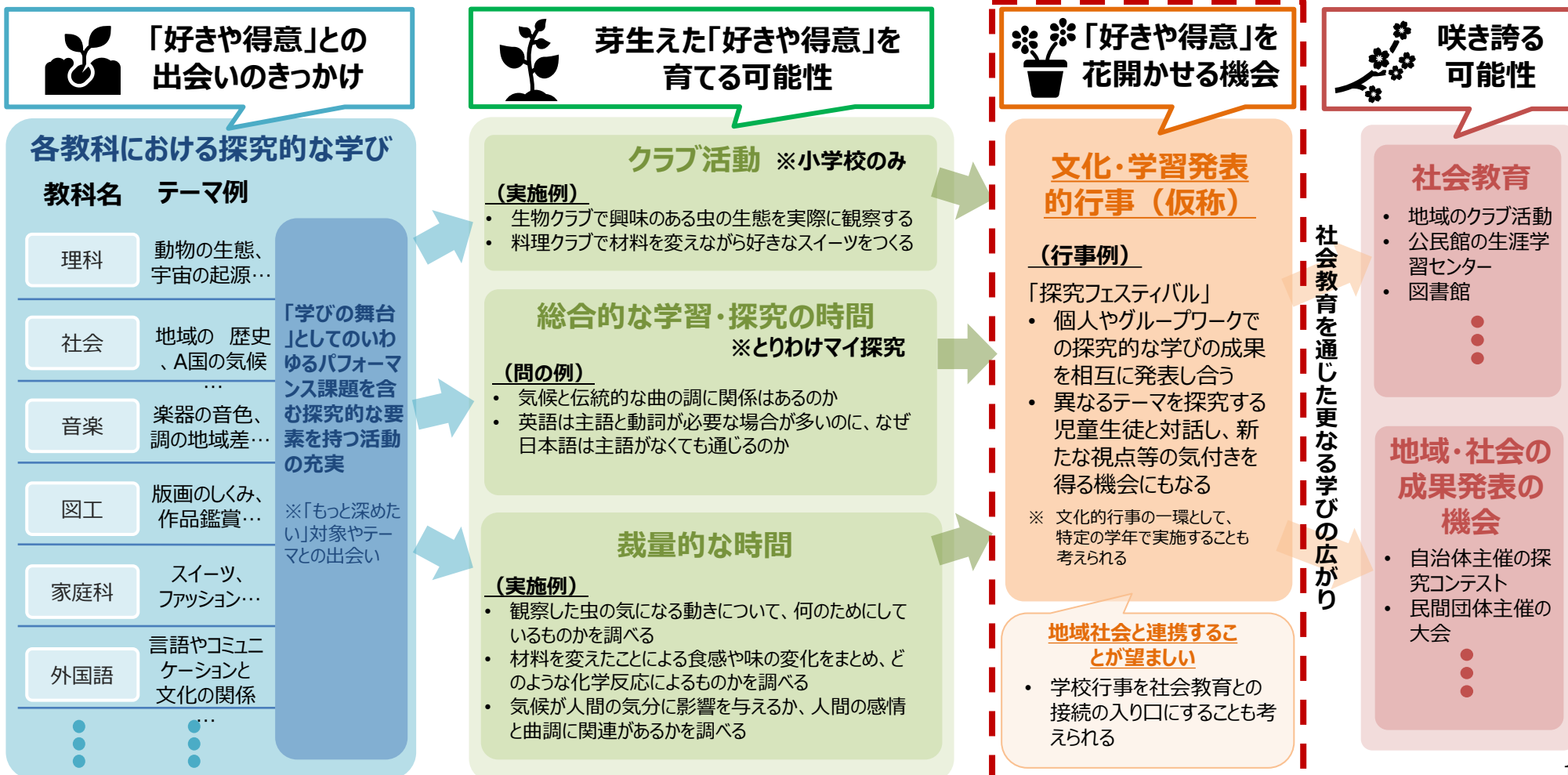
※総合と特別活動の連携はあくまでも選択肢であり、必ず実施しなければならないものではないことに留意

領域	事前の活動・学習	修学旅行／職場体験 等	事後の活動・学習
総合の視点 (探究として 成立している 必要)	(越境探究／キャリア探究 等)		
	<ul style="list-style-type: none"> 越境探究／キャリア探究に向けた課題の設定、情報の収集 等 ※ 探究として成立する部分に限る ※ 課題の設定や情報の収集に限らず、探究の過程の1サイクルを経た上で学校行事を迎える場合もある	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行先／職場体験先における課題の発見、情報の収集 等 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行／職場体験で収集した情報の整理・分析、課題の解決のための行動や改善、まとめ・表現 等
特活の視点 (子供が主体的に 創造する 集団活動として 成立している 必要)	(旅行・集団宿泊的行事／勤労生産・奉仕的行事 等)		
	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行／職場体験の意義の理解 修学旅行／職場体験の活動目標、活動計画、活動内容、役割分担についての話し合い 活動目標、活動計画、活動内容についての合意形成や意思決定 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行／職場体験における体験的な活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り(修学旅行／職場体験における体験的な活動を通して気付いたことなどの振り返り)

学校行事を通じた「好きや得意」の発表の機会の明確化（イメージ）

- 今次改訂で「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」ことを掲げる中、各教科での探究的な要素を持つ学びにおいて見出された興味・関心や好奇心の芽を、総合やクラブ活動、さらには裁量的な時間において育むことが可能な方向で検討が進む一方、こうした学習の成果を学校内外に発信する機会（真正な学びに繋がる発表の舞台）は限られている。
- このため、「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」教育を推進する観点から、学校行事の内容である「(2) 文化的行事」の名称に、現行の解説でも具体例として挙げられている学習発表会の要素を追加し、「文化・学習発表的行事（仮称）」とすることで、地域社会や社会教育部局等とも連携しつつ、「好きや得意」の更なる伸長に繋げる観点から、選択肢の明確化を図ってはどうか。

(※) 自治的な活動を中心とした文化的行事が学校教育活動において大きな役割を果たしている場合も多くある中、あくまでも学校行事として実施する選択肢の1つとして明確化するものであり、現行の文化的行事を置き換えることを求めるものではないほか、実施する場合にも、学校行事の目標を踏まえた活動とすることが前提

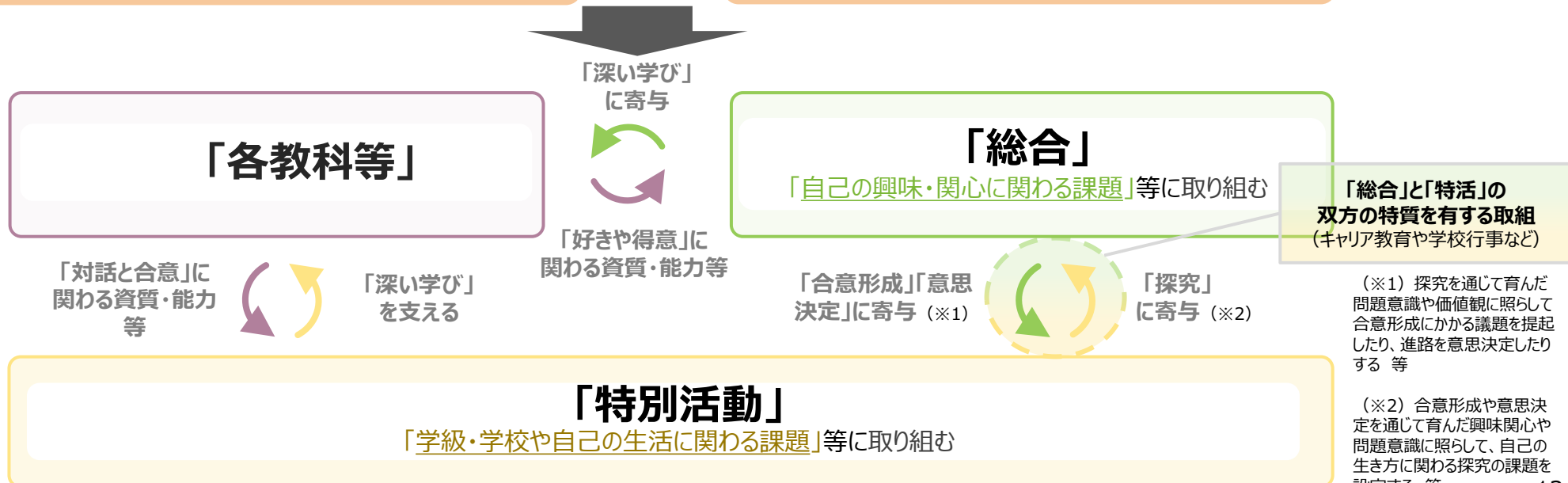


- 特活と総合は、それぞれ「学級・学校や自己の生活に関わる課題」「自己の興味・関心に関わる課題」を主たる対象としているが、両者の**カリキュラム上の一層の連携の可能性**として、**学校行事やキャリア教育**について、議論されてきた。
- また、「**思考・判断・表現**」の学習過程として、総合では「**探究**」、特別活動では「**合意形成**」「**意思決定**」が議論され、「**学びに向かう力・人間性等**」の一環として「**自己の生き方についての考えを深める**」ことが整理されてきた。
- こうしたことを踏まえた、**特別活動と総合のカリキュラム上の連携のイメージ**として、例えば以下のとおり示すことができるのではないかと。
 - ✓ 総合での探究を通じて育んだ問題意識や価値観に照らして、特別活動の合意形成にかかる議題を提起したり、進路を意思決定したりする（**「探究」が「合意形成」「意思決定」に寄与**）
 - ✓ 特活での合意形成や意思決定を通じて育んだ興味関心や問題意識に照らして、自己の生き方に関わる探究の課題を設定する（**「合意形成」「意思決定」が「探究」に寄与**）
 - ✓ **学校行事を自己の興味・関心と社会をつなぐ「舞台」として、特活と総合が連携**
 - ✓ **総合等を実践の場、特別活動を「要」として、キャリア教育を推進**

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)



当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる



- **各教科等の中でもとりわけ特別活動**は、学校を身近な社会と捉え、「合意形成」や「意思決定」のプロセスを通じて、**実社会・実生活をよりよいものに創りかえていく特質**を有しており、多様な価値観を有する**他者との協働**を通じて、**内面的資質としての道徳性を養う道徳教育と深い関わり**がある。(※1)
- また、「複数時間」と相まって更なる充実が期待される「**問題解決的な学習**」では、「**自己内葛藤**（価値と自己との葛藤）」や「**価値の対立**（複数の価値間の葛藤）」と**向き合うこと**を例示しており、こうした活動を通じた学びが、**特別活動における「個人の意思決定」や「集団の合意形成」における道徳的実践に活かされる**とともに、こうした**実践が、道徳的諸価値に関わる考えの深まりに資することが期待される**。
- このため、学校現場の実践の改善に加え、**関連の研究の推進にも資する観点から** (※2) 、**道徳科での学びと特別活動での学びの有機的な関係性や優れた取組事例**等を参考資料等の形で分かりやすく示してはどうか。

(※1) 例えば、道徳科で「公正、公平、社会正義」について考え、議論したことを踏まえて、実生活上の「公正、公平、社会正義」に関わる課題を特別活動で設定し、学級や学校のルール形成といった「合意形成」や、価値観に照らして行動を選択する「意思決定」につなげていくことが考えられる。

(※2) 各学校や実践者による研究はもとより、研究団体の一層の対話・連携に資することも期待できる。

道徳教育の「実践の場」

合意形成

価値観の対立や葛藤と向き合いながら**納得解**を創造

「特別活動」

「学級・学校や自己の生活に関わる課題」等に取り組む

例

学級活動や児童会・生徒会活動において、「公正、公平、社会正義」の観点から生活の中の**問題**や**納得解**を見出し「**ルールの形成**」等の「**社会創造**」につなげる

意思決定

自己の**価値観**に照らし**行動**を選択

実践が考えの
深まりに資する

考え、議論したことを
実践に活かす

問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習 等

(1) **自己内葛藤**、(2) **価値の対立**に対する**自分なりの答え**を見出す、道徳的行為に関する**実体験**や**実感を伴う活動**を取り入れる 等

「特別の教科 道徳」

「**答えが一つではない道徳的課題**」と向き合う

例

「公正、公平、社会正義」の内容項目について考え、議論し、**自分なりの答え**を見出す

「複数時間」の学び（問題を自分事として捉え、学びを深める）を活かす

道徳的諸価値の理解

※道徳教育は、特別の教科 道徳を要として各学校の教育活動全体を通じて行う

「内面的資質としての道徳性」を養う

參考資料

学習指導要領（総則）抜粋

中学校総則（抜粋） ※小学校、高校も同様

第1章第2の3（P22）

(2) 授業時数等の取扱い

- ア 各教科等の授業は、年間 35 週以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が生徒の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。
- イ 特別活動の授業のうち、生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。
- ウ 各学校の時間割については、次の事項を踏まえ適切に編成するものとする。
 - (ア) 各教科等のそれぞれの授業の 1 単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、生徒の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めること。
 - (イ) 各教科等の特質に応じ、10 分から 15 分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において、当該教科等を担当する教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること。
 - (ウ) 給食、休憩などの時間については、各学校において工夫を加え、適切に定めること。
 - (エ) 各学校において、生徒や学校、地域の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できること。
- エ **総合的な学習の時間における学習活動により**、特別活動の学校行事に掲げる**各行事の実施と同様の成果が期待できる場合**においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる**各行事の実施に替えることができる**。

指導要領解説（総合・学校行事関連部分） 抜粋

中学校総則 解説（抜粋） ※小学校、高校も同様

(P68-69)

総合的な学習の時間において、例えば、自然体験活動やボランティア活動を行う場合において、これらの活動は集団活動の形態をとる場合が多く、よりよい人間関係の形成や公共の精神の育成など、特別活動の趣旨も踏まえた活動とすることが考えられる。すなわち、

- 総合的な学習の時間に行われる自然体験活動は、環境や自然を課題とした問題の解決や探究活動として行われると同時に、「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができる」**旅行・集団宿泊的行事**と、
- 総合的な学習の時間に行われる職場体験活動やボランティア活動は、社会との関わりを考える学習活動として行われると同時に、「勤労の尊さや生産の喜びを体得し、職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られる」**勤労生産・奉仕的行事**と、

それぞれ同様の成果も期待できると考えられる。このような場合、総合的な学習の時間とは別に、特別活動として改めてこれらの体験活動を行わないとすることも考えられる。このため、本項により、総合的な学習の時間の実施による特別活動の代替を認めている。

なお、本項の記述は、総合的な学習の時間において、総合的な学習の時間と特別活動の両方の趣旨を踏まえた体験活動を実施した場合に特別活動の代替を認めるものであって、特別活動において体験活動を実施したことをもって総合的な学習の時間の代替を認めるものではない。また、総合的な学習の時間において体験活動を行ったことのみをもって特別活動の代替を認めるものでもなく、よりよい人間関係の形成や公共の精神の育成といった特別活動の趣旨を踏まえる必要があることは言うまでもない。このほか、例えば、補充学習のような専ら特定の教科の知識及び技能の習得を図る学習活動や運動会のような特別活動の健康安全・体育的行事の準備などを総合的な学習の時間に行うことは、総合的な学習の時間の趣旨になじまないことは第4章総合的な学習の時間に示すとおりである。

中学校総合 解説（抜粋） ※小学校、高校も同様

(P41-42)

総合的な学習の時間と特別活動との関連については、第1章総則の第2の3の(2)の工に、「総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。」との記述がある。これは総合的な学習の時間についての記述であり、探究的な学習であることが前提となっている。総合的な学習の時間において探究的な学習が行われる中で体験活動を実施した結果、学校行事として同様の成果が期待できる場合にのみ、特別活動の学校行事を実施したと判断してもよいことを示しているものである。特別活動の学校行事を総合的な学習の時間として安易に流用して実施することを許容しているものではない。

(P55)

なお、体験活動の具体例としては、例えば、職場での体験を通して実社会を垣間見ることにより勤労観・職業観を醸成する職場体験活動なども考えられる。この体験活動は、特別活動として実施する勤労生産・奉仕的行事として行うことも考えられるが、総合的な学習の時間に位置付けて実施する場合には、問題の解決や探究活動に適切に位置付く学習活動でなければならない。このように総合的な学習の時間において、学校行事と関連付けて体験活動を実施することもあり得る。しかし、その場合でも、必ず総合的な学習の時間の目標及び内容を踏まえたものであること、探究的な学習の過程に位置付けていることなどを満たさなければならない。その上で実際に総合的な学習の時間の要件を満たす活動の時数だけを正確に算出して、総合的な学習の時間の時数として計上することが求められる。

平成20年の学習指導要領解説において、運動会の準備や応援練習など（※高校解説においては、文化的行事や健康安全・体育的行事の準備など）は総合的な学習の時間として適切ではないことが明記されたが、一方で十分な改善が図られていないという指摘もある。総合的な学習の時間と特別活動との目標や内容の違いを踏まえ、それぞれの時間に相応しい体験活動を行わなければならない。

総合的な学習の時間と特別活動との関連を意識し、適切に体験活動を位置付けるためには、次のような点に十分配慮すべきである。例えば、修学旅行と関連を図る場合は、その土地に行かなければ解決し得ない学習課題を生徒自らが設定していること、現地の学習活動の計画を生徒が立てること、その上で、現地では見学やインタビューの機会を設けるなど生徒の自主的な学習活動を保障すること、事後は、解決できた部分をまとめ、解決できなかった部分を別の手段で追究する学習活動を行うことなど、一連の学習活動が探究的な学習となっていることが必要である。こうしたことに十分配慮した上で、総合的な学習の時間と特別活動とを関連させて実施することが考えられる。その際、総合的な学習の時間の目標や内容に関わらない時間については、総合的な学習の時間に該当しないことは当然であり、適切な時数が配当されるよう十分に注意しなければならない。

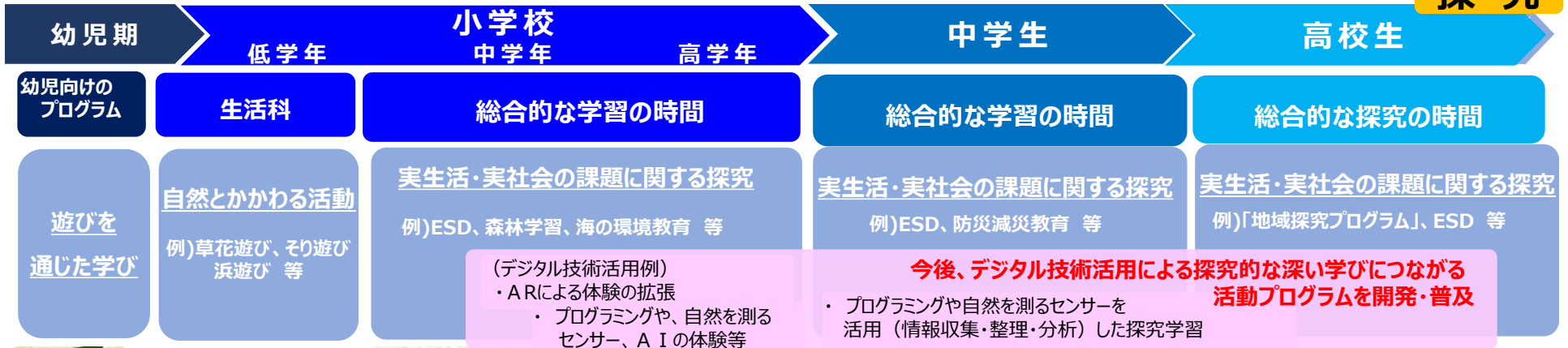
体験活動における子どもの発達段階に応じた質の高い「探究的な学び」

(独) 国立青少年教育振興機構

参照：令和8年4月15日
第6回生活、総合WG
資料2 p.51

- 深い学びを目指して、自然（森林・山、海）や地域社会の中で主体的に関わり、**実生活・実社会とのつながりの中で子供たちが身体を通して質の高い探究的な学びとなる体験活動**を提供。
- **発達に即した幼小中高校間における探究・探究的な学びの接続**を念頭に、他者との対話や協働を通じてよりよく課題を解決する、豊かな人生や持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする力を育むため、**デジタル技術活用を含めた先駆的プログラムを開発・普及**。

探究



森の活動

世界に一つ、自分の作品をタブレットで撮影・表現



源流探検

上流に向かって沢を上りながら水と周囲の環境との関わりを調べる。



カードゲームで森と人、職業などのつながりをイメージして問いをたてる



体験活動の中で森林と水の循環について発見、体感し、仲間と整理・発表

地域の学校・地域・企業など多様な人々と対話・協働しながら「地域探究」



地域・社会にある課題解決に向けた取組を行い、新たな価値を創造

探究的な学び

各教科等： 総合的な学習の時間（探究）を中心に、理科・社会等の各教科と関連付けた教科横断的な体験活動や、他者との協働・対話の力を育むこととしたアドベンチャー教育など、特別活動や道徳等と関連付け、組み合わせた体験活動を提供。

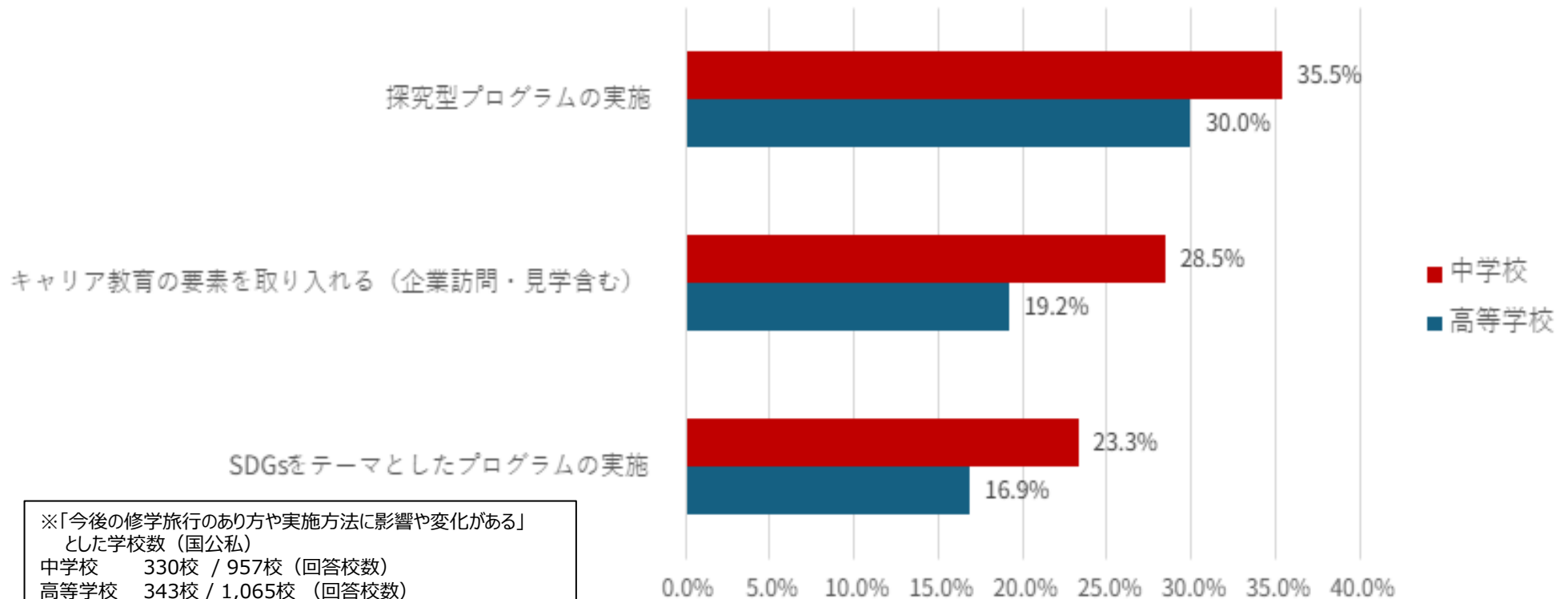
【今後の学校との連携・教師負担軽減のためのサポート体制強化の方向性】

- 事前相談を通じた事前・事後学習でのサポート（教員や児童生徒が参照できる、動画、教材、指導案、ワークシート、振り返り・評価シート等ツールをこれまでの蓄積を活かして開発、学校等のニーズに応じて提供）。WEB上でダウンロードして学校でカスタマイズして活用いただけるプラットフォーム形成。
- 職員や外部指導員等による安全管理も含めた「直接指導」の充実
- 学校のニーズを踏まえた教員研修機会の提供
- 職員等による学校でのアウトリーチ活動と施設での体験との組み合わせ
- 機構職員のファシリテーション力向上

修学旅行の体験内容の変更についての調査結果

- 「今後の修学旅行のあり方や実施方法に影響や変化がある」とした学校のうち、中学校で約35%、高校で約30%が、体験内容について、探究型プログラムの実施を検討していることを示す調査がある。

問 今後の影響・変化～体験内容（複数回答可）



探究×学校行事の取組事例①

佐渡市立新穂中学校

「課題解決型職場体験」(第2学年、50時間扱い)

マイ
探究

行動系

課題解決型職場体験を通して、仕事と佐渡のつながり、自己の生き方を考える

<単元の概略>

1 事前学習 (16時間)

- ・佐渡のよさや課題について意見交換するとともに、興味・関心に応じたグループをつくる
- ・事業所から提示されたミッションについて話し合う

2 職場体験を含む学習 (20時間)

- ・事業所の担当者と意見交換をする
- ・ミッションを意識して職場体験をする
- ・ミッションを解決するための提案をする

3 事後学習 (14時間)

- ・事業所を招いて発表会を開催する

- ・教育委員会、学校、事業所が構想したミッションを事業所から提示。人との関わり、ものづくり、企画、発信などのミッションがあり、例えば、図書館の展示コーナーづくり、木工品の新商品の開発、高齢者施設のレクリエーション企画、仕事の魅力の発信などがある。
- ・職場体験前に、事業所の担当者と意見交換（生き方仕事トーク）を通して、ミッションにつながる勤労観、人生観、佐渡の魅力や可能性などを深く理解する。
- ・職場体験では、仕事を体験するとともに、ミッションに関わる調査をしたり、解決策を提案したりするなど、事業所の担当者とミッションの達成に向けて話し合う。
- ・事後の発表会では、ミッションに対する提案スライドをプレゼンし、仕事と佐渡のつながりと自己の生き方を関連付けて振り返る。

※佐渡市全域で展開しており、写真は新穂中学校以外も含む



生き方仕事トークで、ミッションについて深掘りし、職場体験活動における課題解決への見通しをもつ



職場体験において仕事を体験しながら、ミッション解決に向けて調査したり、事業所の担当者と話し合ったりする



提案発表会では、生徒や事業所の担当者などとの意見交換によって、自己の生き方を考える機会となる 20

探究×学校行事の取組事例②

郡上市立
郡南中学校

学校行事の体験活動を総合に効果的に位置付ける

マイ
探究

行動系

各学年の学校行事を、総合の学習過程に位置付け、体験活動の充実を通して探究を深める。

- 第1学年 郡上研修（18時間）**
 長良川や郡上の自然・文化の魅力と課題について問いをもち、上流の川や山、地域文化を体験的に調査し、その学びを整理した上で、**自分たちにできる実践や地域への発信**へとつなげる。
- 第2学年 宿泊研修（18時間）**
 長良川に携わる人々や地域の取組について課題意識をもち、海・川・森のつながりや地域の課題を体験的に調査し、その学びを基に**地域や企業と協働する取組を構想し、「郡南マルシェ」や発信活動**へとつなげる。
- 第3学年 阪神淡路研修（21時間）**
郡上の強みを生かした教育旅行を提案するという課題の下、都市部との違いや企業のSDGsの取組を比較・分析し、その結果を基に**教育旅行プランを修正・再構成し、提案として発表**する。

※実践は令和6年度のもの

総合に位置付けた学校行事と探究の過程との関係

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
1年 郡上 研修	長良川・郡上の魅力や課題に着目し、「自分たちに何ができるか」という課題意識をもつ	川・山・文化を体験的に調べる（学校行事）	学びを整理し、実践の方向を考える	地域への発信や実践につなげる
2年 宿泊 研修	長良川に関わる人々や地域課題に着目し、「美並に暮らす自分たちに何ができるか」という課題意識をもつ	海・川・森のつながりや地域・企業の取組を調べる（学校行事）	学びを基に協働の取組を構想する	マルシェや発信活動につなげる
3年 阪神 淡路 研修	郡上の強みを生かした教育旅行を提案するという課題意識をもつ	郡上の魅力や旅行企画に必要な情報を集める（学校行事）	都市部との比較から郡上の価値や課題を捉え直す	教育旅行プランとして提案・発表する



郡上研修の様子



「郡南マルシェ」の様子

探究×学校行事の取組事例③

三豊市立 豊中中学校 「Let's enjoy 笑顔はじける僕たちの旅」(第3学年)

マイ
探究

行動系

修学旅行での農・漁業体験等を通じ、それまでの学習の総まとめを行う

<概要>

- 1 学年・人数
・第3学年94名全員参加
- 2 期間
・3泊4日
- 3 宿泊先
・市内ホテル2泊、
民泊1泊

- ・ 中学校入学から3年生に進級するまでの間、総合的な学習の時間等で実施してきた活動の総まとめとして長崎県南島原市への修学旅行を位置付け。
- ・ 実際にその地域の歴史、農産漁業、文化、人に触れることで、それまでの学習内容等と関連付け、その先の学習への意欲や、自身の生き方についての考えを深めることに繋げることができる。
- ・ 南島原市の一般家庭に宿泊し、農業・漁業等の家業の体験をしたり、寝食を共にすることで、勤労の尊さや協働することの大切さも、実体験を通して学ぶ。



民泊先の家庭は市の観光協会が調整



それぞれの宿泊先の家業を手伝い、学校で学ぶ産業を実体験



学んできたことを自分事としてとらえ、その先の活動や生き方に繋げる

探究×学校行事の取組事例④ (1/2)

天草市立
御所浦中学校

探究との関わりで行事の年間指導計画を再構成

テーマ探究
マイ探究

行動系

見直し① 行事の実施方法を見直し、地域探究を充実

- 総合で行っていた進路学習、修学旅行の事前事後学習等を見直し、**総合の時間の充実**など、**年間指導計画全体を再編**。

見直し② 行事の探究化

- 行事についても、これまでの**内容を見直し、生徒の興味・関心を踏まえた課題やねらいを設定**するなど、**探究的な学習となるよう実施プロセスを見直し**。

見直し③ 探究の充実

- ①によって充実した探究の時間のうち、**3年生においてはこれまで自身が学んだ事や深めた関心を基に、MY探究として一定の時間をかけて成果をまとめる時間を確保**。



事前学習等を踏まえ、実際に地域を訪ねて考えを深める活動を充実

授業時数と取り組み内容の変化

	変更前			変更後		
	探究	行事	計	探究	学校行事の事前・事後等に行う探究	計
1年	20 ふるさと探究	30	50	30 ふるさと探究 I	20 集団宿泊教室 4、 <u>世界遺産学</u> (※1) 12、キャリア 4	50
2年	25 ふるさと探究	45	70	50 ふるさと探究 II	20 修学旅行事前・事後11、キャリア2、立志式7 (※2)	70
3年	35 ふるさと探究	35	70	50 MY探究	20 キャリア10、卒業プロジェクト10	70

(※1) 天草市の歴史や文化を全員が実際に訪れて体験的に学べるようにした天草市教育委員会の推進事業。市内のすべての小・中学校で実施されている。

(※2) 元服に由来し、志を立てることを目的とした学校行事

探究×学校行事の取組事例④ (2/2)

天草市立
御所浦中学校

探究との関わりで行事の年間指導計画を再構成

テーマ探究
マイ探究

行動系

集団宿泊教室 (1年) ※学校行事当日を除き4コマ

課題の設定	訪れる場所の現状と課題、魅力を知る
情報の収集	芦北町 (人口、産業、観光など) について調べる
整理・分析	当日の日程や、班、係を確認してしおりにまとめる
まとめ・表現	集団宿泊教室のふりかえりをする

天草体験学習「世界遺産学」(1年) ※学校行事当日を含め12コマ

事前学習	課題の設定	訪れる場所の現状と課題、世界遺産について知る
	情報の収集	・崎津集落 (世界遺産とは、登録の経緯、歴史や文化) について調べる ・崎津集落を取り巻く、河浦町の現状や課題を知る
	整理・分析	当日の日程や、班、係を確認してしおりにまとめる
当日	情報の収集	崎津集落に行って、世界遺産学を学ぶ ・崎津集落の歴史や文化について知る ・世界遺産を守るための取組について知る ・観光客を増やすための工夫について調べる
事後学習	整理・分析 まとめ・表現	世界遺産学で学んだことを、まとめる ・新聞にまとめる ・パンフレットを作成する ・プレゼンテーションを作成する ・崎津集落の取組と御所浦町を比較し、意見交流する

修学旅行 (2年) ※学校行事当日を除き11コマ

事前学習	課題の設定	修学旅行の意義を知り、自分の課題を設定する
	情報の収集	旅行先について、調べる
	整理・分析 まとめ・表現	調べたものを整理・分析して、まとめる
当日	情報の収集	旅行先を訪れ、自分の課題について情報を得る
事後学習	整理・分析	修学旅行で学んだことを振り返り、しおりをまとめる
	まとめ・表現	修学旅行先で得た情報を分析し、魅力発信につなげる

立志式 (2年) ※学校行事当日を除き7コマ

課題の設定	立志式について知り、立志の言葉を考える
情報の収集	立志の言葉の表現方法を考え、これまでの活動をもと
整理・分析	に、立志の言葉を色紙に表し、文章にまとめる
まとめ・表現	・立志式で自分の決意を発表する ・自分の課題について振り返る

卒業プロジェクト (3年) ※学校行事当日を除き10コマ

課題の設定	地域や学校のためにできることを考える
情報の収集	卒業プロジェクトを実現するために必要な情報を集める
整理・分析	卒業プロジェクトに必要な準備を整える ・必要な道具、物 ・協力が必要な人、事業所等
まとめ・表現	卒業プロジェクトを実行する

探究×学校行事の取組事例⑤

会社訪問を通して、自分の課題をみつける

マイ
探究

行動系

群馬県立高崎女子高校

学校・社・官連携 探究コンソーシアム

- ✓ 1年生全員を対象に、探究型インターンシップを3日間実施。
- ✓ 生徒は自分の興味関心に基づいて訪問先を決め、自分で企業等に連絡・交渉して訪問。
- ✓ 会社は、問題解決や探究に最前線で取り組んでいるところと捉え、その取組を実際に経験する場となる。
- ✓ 自身の探究活動（テーマ研究）と関連付けながら社会課題に触れることで、自身の探究活動を発展させる。
- ✓ 成果報告会で自分の探究テーマの要素を検討し、課題を設定し、探究を開始する。

- ✓ ぐんまの中学校・高校・大学の教員、地域を支える企業、官公庁が連携し「自ら課題を設定し解決することを通して、主体的に社会を変えていこうとするぐんまの子どもたち」を育てるプラットフォームを構築。
- ✓ コアプログラムの共有・開発
- ✓ 人材育成ビジョン協議会、合同発表会、探究サミット等の開催。
- ✓ Webページ等を用いた積極的な情報発信を行う。Webページには「高校生インターンシップ 協力事業所一覧」も掲載。



インターンシップの様子

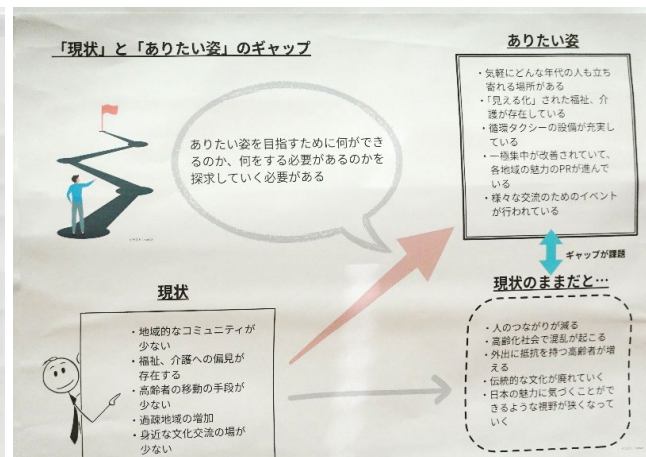
5. 探究型インターンシップを終えて新たに興味を持ったキーワード

教育におけるICT化、AIの活用
インターンシップで中学校に訪問し、ICT化が急速に進んでいることがわかった。どうすればICTを上手に活用して学習をより良いものにできるのか探究したい。

教員の不足
ニュースや先生方の話を聞いて、教員の不足が深刻化していることがわかった。教員不足の原因や、どうしたら教員志望者が増えるかなどを探究したい。

子供の睡眠不足
自分も含めて、子供の睡眠不足が問題になっていると聞いた。どうして睡眠不足になってしまうのか、解決する方法はないのか、睡眠不足がどんな影響を及ぼすのか、子供の視点から探究したい。

「推し活」がもたらす影響
現在若い世代をはじめ、幅広い世代がおこなっている「推し活」がどんな影響を及ぼしているのか、経済的、心理的な面から分析したい。



サブクエスチョンからメインクエスチョンを設定し訪問。当日の気付きから探究の課題の要素を挙げ、自分の探究の課題を設定につなげる。

自治体による探究型修学旅行の誘致の取組事例

北九州市

「北九州市のSDGs修学旅行2.0」

テーマ探究
マイ探究

行動系

地域ならではの探究型修学旅行の開発と販売による誘致

- 2024年度に、北九州市のSDGs修学旅行等の商品開発促進事業の一環として、「北九州修学旅行サポートセンター」を開設。北九州市ならではの歴史等の魅力や社会課題を考える「修学旅行探究学習プログラム」の開発を行い、旅行会社への直接販売を行う。さらには、探究学習のテーマ選定や見学先の予約、ワークショップ会場の手配、講師や大学生とのマッチング、精算等、様々な修学旅行のニーズにワンストップで対応し、学校や旅行会社の負担を軽減する。
- これまでの修学旅行の誘致は、観光振興を主目的に、宿泊施設や観光関連事業者が行政と連携していたが、「北九州市を訪れる」から「北九州市で学び・考える」に方向性を変えたことにより、これまで連携できていなかった地元企業や組織・団体と連携したプログラムとなった。
- ものづくりを中心とした先進的な企業を訪問するフィールドワークを通じた探究や、地元の大学生とリノベーションの進む地域の「まち歩き」による探究等、様々なオリジナルプログラムを開発している。

北九州の修学旅行で得られる 学習の3要素



SDGs

社会問題や環境問題の解決に向けた北九州市のSDGsへの取組を深く学ぶ機会を提供します。

体験型プログラム

体験型プログラムは、実践を通じた学びを提供し、理論だけでは習得できない知識やスキルを身につけることを可能にします。直接的な経験を通して、問題解決能力や自己成長を促し、より深い理解を促進します。

探究学習

生徒自身が学習テーマを設定し、体験を通じて得た知識を基にさらに考察を深めることで、生徒の主体性を引き出し、将来の行動に繋げる力を育みます。

北九州SDGs探究学習プログラム



プログラム SDGs未来都市北九州市で学ぶ 01 先進企業のSDGsへの取組

学習できるSDGs分野
6 7 8 9 11
12 13 14 15 17

<学びのポイント>
蓄積された産業の歴史遺産を知ると同時に、現在も日本の産業界をリードする、ものづくりの最先端技術や環境問題克服の歴史、SDGsへの取組などを学び、全体セミナーで共有し探究するフィールドワーク&SDGsセミナー運動型・探究プログラム。

<キーワード> #産業観光 #SDGs

プログラム例1) 先進的な企業を訪問するフィールドワークを通じた探究

プログラム 新しい地域のあり方を探究 02 デザイン思考の地域創生

学習できるSDGs分野
4 8 11

<学びのポイント>
遊休不動産の見方を変え再編集しエリア価値を高める。北九州市小倉・黒崎地区まちづくりについて先駆者に学ぶ。新しい価値創造のあり方をデザイン思考で取り組む「まちのリノベーション」について大学生とのまち歩きを通して探究する。

<キーワード> #地方創生 #デザイン思考

プログラム例2) 地元の大学生とリノベーションの進む地域の「まち歩き」による探究

学校行事の内容の変遷（小学校）

	内容						
昭和33年	儀式	学芸的行事	保健体育的行事	遠足	学校給食	その他上記の目標を達成する教育活動	
昭和43年	儀式	学芸的行事	保健体育的行事	遠足的行事		安全指導的行事	
昭和52年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	<u>体育的行事</u>	遠足・ <u>旅行的行事</u>		保健・安全的行事	勤労・生産的行事
平成元年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	<u>健康安全・体育的行事</u>	遠足・ <u>集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成10年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	<u>健康安全・体育的行事</u>	遠足・ <u>集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成20年	<u>儀式的行事</u>	<u>文化的行事</u>	<u>健康安全・体育的行事</u>	遠足・ <u>集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成29年	<u>儀式的行事</u>	<u>文化的行事</u>	<u>健康安全・体育的行事</u>	遠足・ <u>集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>

※変遷過程において、前回改訂より変化した文言に下線を引き、現行と同じ文言を青字としている。

※学習指導要領本則の内容の変遷を記載。

学校行事の内容の変遷（中学校）

	内容						
昭和33年	儀式	学芸的行事	保健体育的行事	遠足	修学旅行	学校給食	その他上記の目標を達成する教育活動 (健康診断その他の調査や検査、退避その他の訓練、大そうじ、朝会、映画鑑賞など(※)) (※)解説より
昭和44年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	体育的行事	<u>修学旅行的行事</u>		保健・安全的行事	勤労・生産的行事
昭和52年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	体育的行事	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>		保健・安全的行事	勤労・生産的行事
平成元年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成10年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成20年	<u>儀式的行事</u>	<u>文化的行事</u>	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成29年	<u>儀式的行事</u>	<u>文化的行事</u>	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>			勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>

※変遷過程において、前回改訂より変化した文言に下線を引き、現行と同じ文言を青字としている。

※学習指導要領本則の内容の変遷を記載。

学校行事の内容の変遷（高等学校）

	内容					
昭和35年	儀式	学芸的行事	保健体育的行事	遠足	修学旅行	その他上記の目標を達成する教育活動（学校給食等）
昭和45年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	体育的行事	旅行的行事	保健・安全的行事	勤労・生産的行事
昭和53年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	体育的行事	旅行的行事	保健・安全的行事	勤労・生産的行事
平成元年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>		勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成11年	<u>儀式的行事</u>	学芸的行事	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>		勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成21年	<u>儀式的行事</u>	<u>文化的行事</u>	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>		勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>
平成30年	<u>儀式的行事</u>	<u>文化的行事</u>	<u>健康安全・体育的行事</u>	<u>旅行・集団宿泊的行事</u>		勤労生産・ <u>奉仕的行事</u>

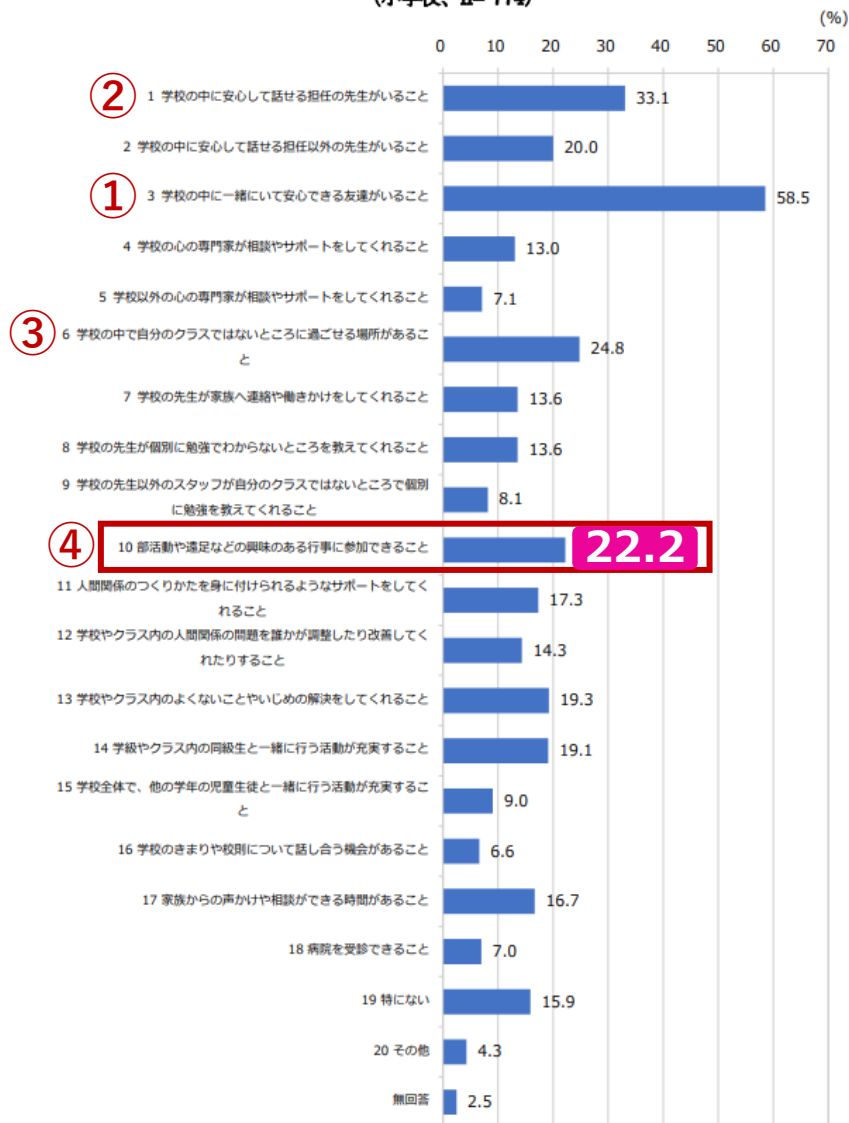
※変遷過程において、前回改訂より変化した文言に下線を引き、現行と同じ文言を青字としている。

※学習指導要領本則の内容の変遷を記載。

学校を欠席したい気持ちを減らせる理由として、 学校行事を挙げる小中学生は約22%と4番目に多い

図表 2-19 学校を欠席したい気持ちを減らせること

(小学校、n= 774)



図表 2-20 学校を欠席したい気持ちを減らせること

(中学校、n= 987)



【出所】栃木県教育委員会「不登校に関する調査 集計結果」令和7年3月、p.20, 22より作成。本調査は、令和6年7～8月に、県内全ての公立小学校6年生、公立中学校2年生、県立高校全日制課程2年生の計約4万人を対象に実施。本設問は、病気やけが以外の理由による欠席意向がある（「よくある」、または、「ときどきある」）と回答した児童生徒のうち、実際に学校を欠席した（「いつも欠席していた」、または、「ときどき欠席することがあった」）と回答した児童生徒を対象としたもの。

学校行事の充実に関する事例①

埼玉県富士見市立鶴瀬小学校

計画の一部を児童が創造する学校行事

学校行事

- ・ 従前、全校遠足は教師が計画を立てて取り組んでおり、子供たちは指示されたことを守りながら活動していた。
- ・ 遠足先の公園で自由に遊ぶのではなく、全校で取り組める活動がしたいといった意見を受け、行った先の公園でどんな活動をするかを各学級で話し合うように代表委員会から連絡。各クラスで話し合った活動をもとに、代表委員会で、縦割り班でスタンプラリーを取り組むことに決定した。
- ・ 代表委員会が主体的に準備を進め、当日のスタンプラリーでは、下学年の思いを聞いたり、疲れていないかなど配慮する声が聞かれ、従来の学校行事からの変化が見られた。



全校遠足は教師が計画し、児童は教師に指示された通りに活動



各学級での話し合いを受け、全校遠足で縦割り班でのスタンプラリーを実施



異学年の児童が互いに協力し、下学年を配慮した活動を実施

学校行事の充実に関する事例②

江戸川区立葛西第三中学校

学びを学校生活への意欲につなげる指導の工夫

学校行事

- 学校行事の経験を、日常の学校生活をよりよく創造するということにつなげられるよう、**①教師による意図的・計画的なフィードバック**、**②異年齢集団による活動の意図的な設定**の2点を実施。
- ①では、教師が無自覚に行っていた行事と学習面を切り離すような指導から、**行事での頑張りを価値付けつつなげる指導を意識**。具体的には、高いレベルの目標達成を意識させ、スモールステップでの「頑張り」を積極的に価値付けるように心掛けることで、**教育的効果を6割を超える教師が強く実感し、生徒の感想からも実感を確認**することが出来た。
- ②では、意見交換をする機会を設け、多様な意見や価値観を理解する場を設定した。そのことにより、**「合唱祭だけでなく今後も協力していきたい」など、学校行事の経験をその後の学校生活の意欲につなげる生徒の姿が見られた**。



3年生と1年生がペアになって練習



生徒の自発的、自治的な活動



他学年との合唱交流の場を生徒自身が設定



2. クラブ活動について

議論の前提

(現状)

- クラブ活動は、主として4年生以上の「異年齢の児童」で協力し、共通の興味・関心を追求する「同好の活動」に自治的に取り組むことを通して、「個性の伸長」等を図る活動であり、学級や学年を超え、「好き」を通して児童同士で活動し、交流する機会となっている。
- 時数の設定について指導要領上の決まりはなく、全国調査では、クラブ活動の時間数は平均11.5コマ（H30）から8.7コマ（R7）と減少傾向。一方で、「学校が楽しい理由」として、約6割が「クラブ活動や部活動が楽しいから」としている県単位の調査結果もある。
- 中学校については、教育課程外の活動である部活動の充実に伴い平成10年に廃止された経緯がある。また、中学校の部活動については、地域展開を進めていくこととされている。

(課題)

- クラブ活動のねらいは「組織づくり」「楽しむ活動」「成果発表」等に主体的・実践的に取り組むことを通して、個性の伸長や、同好の活動を楽しく豊かにするための課題を解決することができるようになること等とされているが、発表会ありきの活動になっている、前年踏襲や教員主導の運営になりがちであり、児童の声が必ずしも生かされていない場合があるといった指摘がある。
- また、本来は学級や学年を超え、多様な人と協働しながらよりよく同好の活動を運営すること等が意図されているが、固定的な人間関係の再生産になりがちである、楽しい活動にはなっているが必ずしも個性の伸長につなげていない、解説で示されている「余暇を有効に活用しようとする態度」は地域の様々な人間関係の中で積極的に育むべき、といった指摘もある。

具体的論点（案）

1. 改訂全体の方向性を踏まえたクラブ活動の意義や教師の役割

- 論点整理で示された「好き（興味・関心）を育み、得意を伸ばす」ことを教育課程全体で重視する方向性や、こうした方向性の下で「文化・学習発表的行事（仮称）」としてクラブ活動で育んだ「好きや得意」等を発表する場を位置付けることが議論されていること等も踏まえ、クラブ活動の意義として「好き（興味・関心）の追求による個性の伸長」を図ることを重視することとしてはどうか。
- その上で、特別活動の特質を踏まえ、児童が主体となった活動の創造や運営を推進していく観点から、教師の役割として、児童による主体的な運営や運営上の課題解決を支援することを、解説等で明確化してはどうか。

具体的論点（案）

2. 社会教育活動との接続と、クラブ活動の多様化・柔軟化

- クラブ活動の時間が全国的に減少傾向である一方、教育課程全体で「余白」の創出に向けて議論している中、学校現場の実態に鑑みれば時間数の確保を求めることも難しい中で、教育課程内の活動だけでクラブ活動の目標を実現することは、今後も容易ではないことが想定される。このため、学校でのクラブ活動は、「好き」や「得意」の追求のきっかけの一つと位置付けた上で、子供が教室や地域学校協働活動、図書館や公民館での活動、地域クラブ活動をはじめ、地域における放課後の様々な活動と適切に接続する（※）ことで、発達の段階も踏まえつつ、体験や個性の伸長の機会の保障と主体的な社会参画との両立を図る方向で検討してはどうか。

（※）例えば、設置されたクラブと関係のある地域の活動を掲示するなどして児童に紹介する 等

- 更に、クラブ活動が前例踏襲になりがちであるとの指摘や、学校規模をはじめ、各学校の実態に応じて「好きの追求による個性の伸長」の在り方は多様であり得ることも踏まえ、以下のとおり、多様なクラブ活動を認める方向で検討してはどうか。その上で、教師の過度な負担なく「好きの追求による個性の伸長」を図る多様なクラブ活動の運用の在り方についての事例を積極的に提供してはどうか。

- ✓ 従来どおり児童がクラブに所属し、定期的にクラブごとに集まり、活動を行うこととしつつ、異学年の原則を維持しつつ学年の縛り（主として4年生以上）や学習活動（「組織づくり」「楽しむ活動」「成果発表」）をより柔軟に設定（※）できるようにする
- ✓ 実施を特定の期間に集中させ、より密度の高い活動とすることが可能であることの明確化
- ✓ 「文化・学習発表的行事（仮称）」と連携することが可能であることの明確化

（※）例えば、学年について小規模校や大規模校で3年生以上や5年生以上で実施する、活動について、自治的活動としての「組織づくり」を必須とした上で、成果発表は学校行事と組み合わせることとし、クラブ活動としては行わない 等

3. クラブ活動と裁量的な時間との連携

- 裁量的な時間の「学習枠」に関し、クラブ活動とも関わり得るものとして、総則・評価特別部会では、
 - ✓ 取組要件として「児童生徒の興味・関心の高まり等を踏まえ、学習を拡充・発展させたり、試行的な取組を行ったり、学年区分を超えて縦割りで実施したりするなどの付加的な学習活動として行うこと」や、
 - ✓ 実施可能な取組の類型として、「個人探究を伴う体験活動の充実」、「企業・団体等とも連携して児童生徒の視野を広げ学習意欲を高める取組」等を位置付けること

について議論がされているところ。

- こうした議論や、これまで議論してきたクラブ活動を取り巻く現下の状況を踏まえ、クラブ活動での学びを更に深掘りする形で裁量的な時間を活用し、「好きの追求による個性の伸長」を豊かに実現するといった、クラブ活動と裁量的な時間との連携について、解説等で記載することとしてはどうか。

【取組が備えるべき要件例】

- 以下のような例のほか、設定すべきと考えられる要件はあるか。
- 1. 学習指導要領に定める各教科等の内容に該当しない、もしくはいずれか一つの教科等に当てはめるのが困難な学習活動であること
- 2. 各教科等の内容にも一部該当する学習活動を行う場合は、当該内容について各教科等の教育課程において適切に扱うこととした上で、**児童生徒の興味・関心の高まり等を踏まえ、学習を拡充・発展させたり、試行的な取組を行ったり、学年区分を超えて縦割りで実施したりするなどの付加的な学習活動として行うこと**
- 3. 児童生徒の実態を踏まえ、学校教育法に定める教育の目標の実現に特に資すること
- 4. 各学校の学校教育目標・教育課程編成に係る基本方針・年間指導計画等に基づく組織的な取組であること
- 5. 発達の段階に即して適切なものであること
- 6. 児童生徒の転出入に対する配慮等の教育上必要な配慮がなされていること

【上限設定の考え方】

- 裁量的な時間に関しては、以下の観点を踏まえれば、調整授業時数を充てることができる時数の上限を設けるべきではないか。
- ① 各教科等の時数を標準を下回って生み出した調整授業時数を各教科等以外の教育活動に充てるといった性質に鑑み、適切に資質・能力の育成に資する制度設計とする必要があること
- ② ①を勘案すると、一定以上の調整授業時数を生み出した場合には、学習指導要領で目標・内容が定められる各教科等への上乗せや、体系的な内容により構成される新教科の実施にも活用できる設計とする必要があること
- ③ 「裁量的な時間（学習枠）」は、今後、全国の学校や教育委員会で効果的な取組や知見の蓄積が見込まれるものであり、制度創設当初から過大な時数が充てられることは望ましくないこと
- 以上を踏まえた上で、右記の類型に示すような各学校の創意工夫を生かした複数の教育プログラムを年間を通じて計画的に実施することも考えられる中、全体としてどの程度の上限を設定することが適切か。

【実施可能な取組の類型】

- これまでの研究開発学校等の取組を踏まえ、以下のような実施可能な取組の類型を示し、制度施行後の取組の進展に応じて見直すこととしてはどうか。この他に考えられる類型や具体例、留意事項はあるか。
- 特に個人探究や地域の特色を生かした取組を実施する際には、総合的な学習の時間との役割分担に特に配慮し、取組内容が重複したりせず、両者の連携が適切に図られるように、相乗効果を企図すべきではないか。

① 個に応じた学習過程の充実に資する取組

（例）総合的な学習の時間等で設定した個人探究課題の深掘り、自ら選んだ教科等の学習課題に関して自己調整しながら学ぶ取組、個々の児童生徒のニーズや認知の特性に応じた個別指導や学習カウンセリング、下学年の未習得事項を効果的に学び直すプログラム等

② 学習の素地を高める取組

（例）**個人探究を伴う体験活動の充実、企業・団体等とも連携して児童生徒の視野を広げ学習意欲を高める取組**、言語能力・情報活用能力の重点的な育成のための取組、認知機能強化に着目した取組、学習方略やメタ認知等に関する体系的指導等

③ 関係性の質を高め、学習の一層の円滑化に特に資する取組

（例）いじめ防止や安全に関する教育、対人関係の基礎となるソーシャルスキルの育成などの対話的な学習の基礎となる人間関係形成の円滑化に資する学習等

※こうした取組を特に要する児童生徒を対象として行う場合も考えられ、その場合例えば、①や②の取組を実施する場合に、特に要する児童生徒については③を実施するといった実施方法も考えられる

④ その他地域等の特色を生かした取組

（例）特別支援学級・学校との交流及び共同学習、地域の多様な大人と探究的に関わる活動、現代的な諸課題に対応した教育活動を更に深掘り・充実させる学習活動等

学級活動以外の特別活動の授業時数の状況【R7計画】（小学校5年）

令和7年度

【小学校5年】

令和6年度（前回調査）

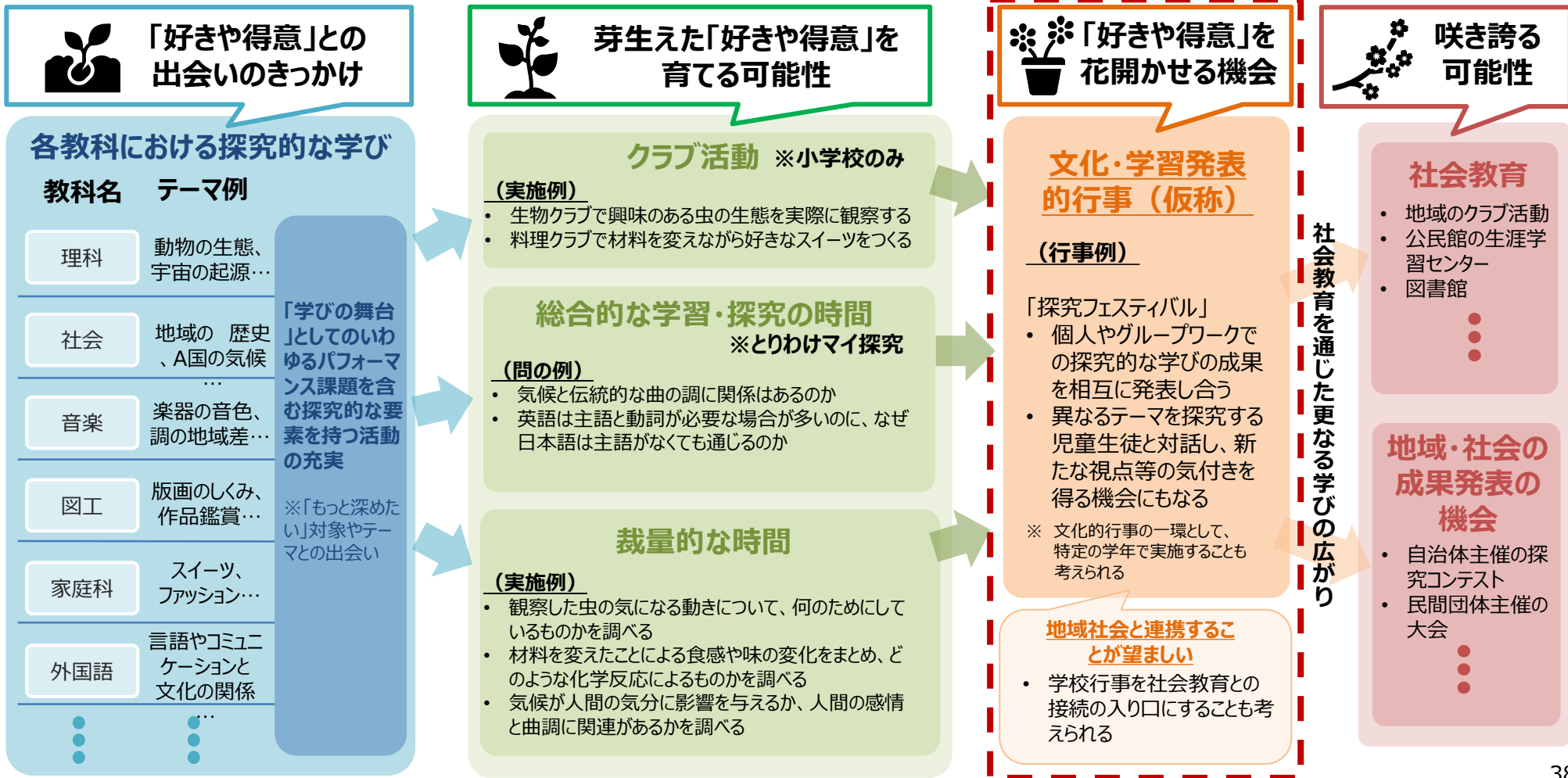


※ 学級活動を除く特別活動全体の数値であり、児童会活動、クラブ活動、学校行事の合計。

学校行事を通じた「好きや得意」の発表の機会の明確化（イメージ）

- 今次改訂で「好きを育み、得意を伸ばす」を掲げる中、各教科での探究的な要素を持つ学びにおいて見出された興味・関心や好奇心の芽を、総合やクラブ活動、さらには裁量的な時間において育むことが可能な方向で検討が進む一方、こうした学習の成果を学校内外に発信する機会（真正な学びに繋がる発表の舞台）は限られている。
- このため、「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」教育を推進する観点から、学校行事の内容である「(2) 文化的行事」の名称に、現行の解説でも具体例として挙げられている学習発表会の要素を追加し、「文化・学習発表的行事（仮称）」とすることで、地域社会や社会教育部局等とも連携しつつ、「好きや得意」の更なる伸長に繋げる観点から、選択肢の明確化を図ってはどうか。

(※) 学校行事として実施する選択肢の1つとして明確化するものであり、必ず実施しなければならないものではないほか、実施する場合にも、学校行事の目標を踏まえた活動とすることが前提



參考資料

小中学校・クラブ活動と部活動の内容の変遷

	小学校	中学校
昭和22年	「自由研究」 ・児童の個性に赴く学びの時間 ・ クラブ活動 ・当番の仕事、学級委員の仕事	
昭和33年	「教科以外の活動の時間」 児童全体の集会、委員会、 クラブ活動	「特別教育活動」 ホームルーム、生徒会、 クラブ活動 、生徒集会
昭和43年	「特別教育活動」 児童会活動、学級会活動、 クラブ活動	「特別教育活動」 生徒会活動、 クラブ活動 、学級活動
昭和52年	「特別活動」 児童活動（児童会活動、学級会活動、 クラブ活動 ）、学校行事、学級指導	「特別活動」 生徒活動（生徒会活動、 クラブ活動 、学級会活動）、学級指導、学校行事
平成元年	「特別活動」（70） 児童活動（児童会活動、学級会活動、 クラブ活動 ）、学校行事、学級指導	「特別活動」（70） 生徒活動（生徒会活動、 クラブ活動 、学級会活動）、学級指導、学校行事
平成10年	「特別活動」（70） 学級活動、児童会活動、 クラブ活動 、学校行事	「特別活動」（70） 学級活動、生徒会活動、学校行事
平成20年	「特別活動」（35） 学級活動、児童会活動、 クラブ活動 、学校行事	「特別活動」（35） 学級活動、生徒会活動、学校行事
平成29年	「特別活動」（35） 学級活動、児童会活動、 クラブ活動 、学校行事	「特別活動」（35） 学級活動、生徒会活動、学校行事

※（）内は標準授業時数。

※学習指導要領本則の内容の変遷を記載。

学校生活を楽しむ理由として、クラブ活動を挙げる小学生は約62%と3番目に多い

< 学校生活を楽しむ理由 >

Q12 Q11で「1 楽しい」又は「2 どちらかといえば楽しい」を選んだ人にお聞きします。学校生活
が楽しい理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

※小学生版:Q11

【全体集計結果】

学校生活が楽しいと感じる人にその理由を尋ねたところ、全体では「好きな友だちがいるから」が最も高く、以下、「いろいろな学校行事が楽しいから」、「クラブ活動や部活動が楽しいから」となっている。

【学校種別集計結果】

小学生、中学生、高校生のいずれも、「好きな友だちがいるから」が最も高い。

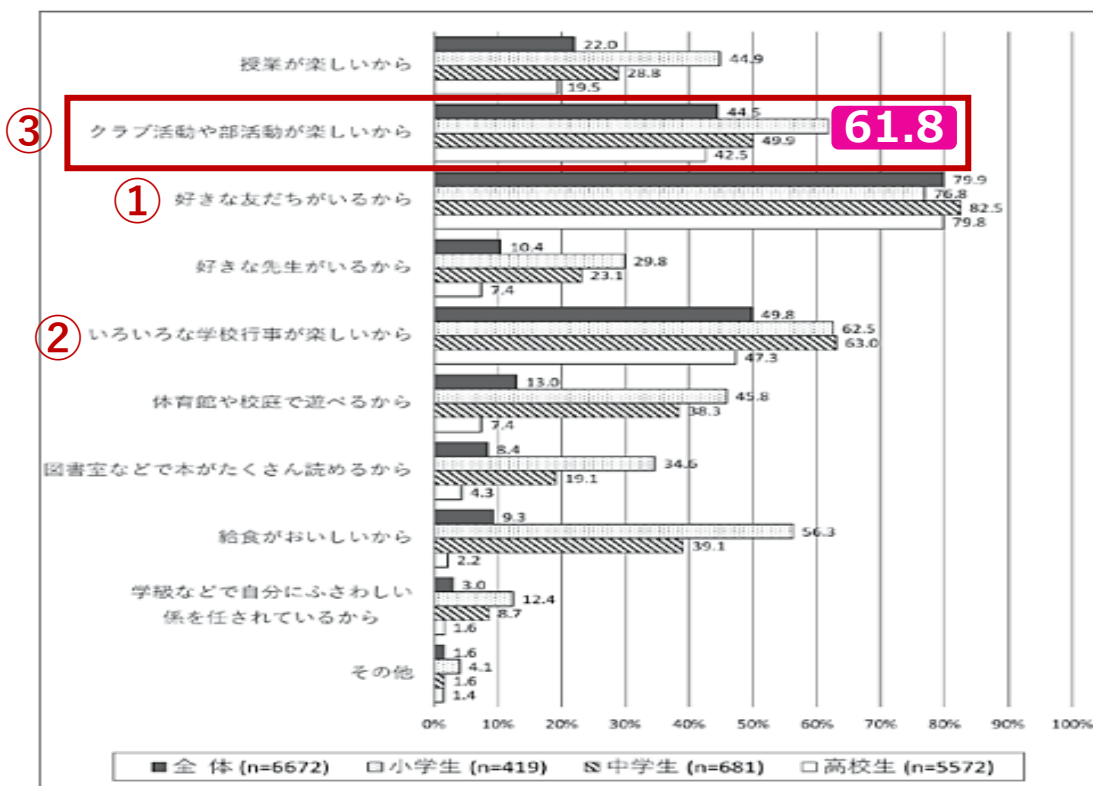


図9-1 学校生活を楽しむ理由

【出所】青森県『『青少年の意識に関する調査』結果報告書』（令和7年3月）p.26より作成

※調査実施期間：令和6年9月～10月 ※調査対象者：層化無作為抽出法により選定された小学校（6年生）及び中学校（2年生）の児童生徒、県内の県立及び私立高等学校の2年生全生徒 計10,851名

※回答者数：7,428名

クラブ活動の充実に関する事例①

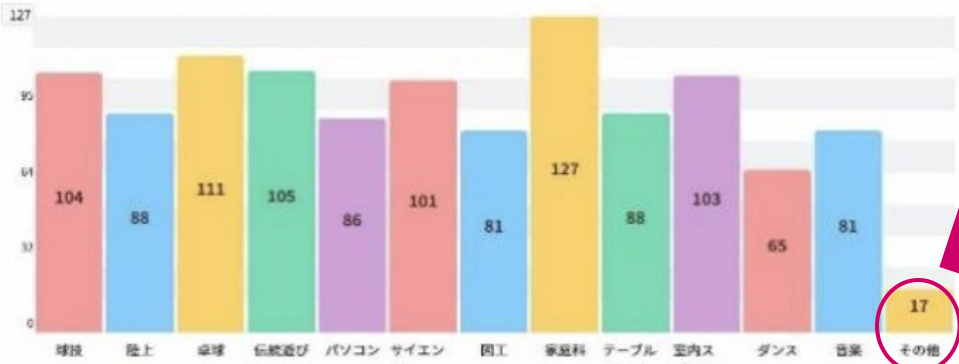
横浜市小学校特別活動研究会

デジタル学習基盤を活用した子供主体による
人数調整の取組

クラブ活動

- 子供たち一人一人が、次年度も継続したいクラブや新たに立ち上げたいクラブについて考え、「設置」に関する希望調査をアンケートフォームで実施（下図参照）。その中で、新たなクラブの立ち上げを希望する子供は、自分がつくりたいクラブの内容を投稿する。
- 教師が、環境面や安全面等の条件を踏まえ、クラブの設置の可否について検討した上で、子供たちは、自分が入りたいクラブに投票する。希望者が多い場合等には、自分たちで他に取り組みたいクラブへ移動するなどとして調整する。

Q1 来年度あるといいと思うクラブを全てえらんでください。（いくつ選んでもOK）
新しいクラブを作りたい場合は、「その他」をえらんでください。
ただし、①各学年がそろっている
②指どうできる先生がいる
③活動の場所や道具がある ことが条件です。
※ここでえらんだものが決まるわけではありません。



Q2 「その他」と答えた人は、どんなクラブがあるとよいか書いてください。
また、そのクラブでどんなことをしたいか具体的に書いてください。

ボードゲーム
将棋やおセロなどボードゲームをする

宇宙航空系クラブ
(宇宙や飛行機のことを調べ、実際に、飛行機の模型を作って飛ばしたりする。)

料理
色々な料理を作る

前年度のクラブをもとに、設置に関する希望調査をおこなうが、「その他」を設け、新たなクラブの立ち上げを希望する場合には、意見を投稿できるようにする

新たなクラブを希望する場合には、どんなことを取り組みたいか具体的に記述できるようにする

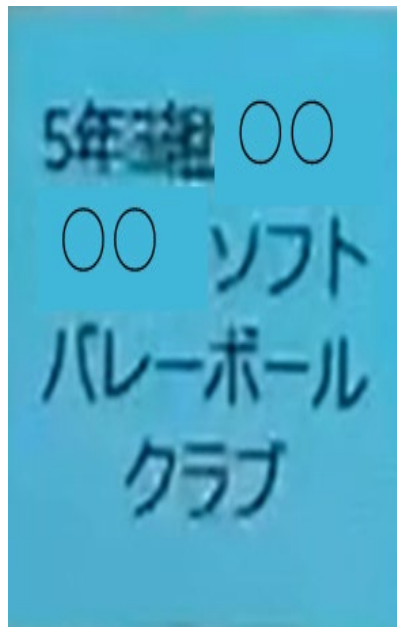
クラブ活動の充実に関する事例②

江東区立第四砂町小学校

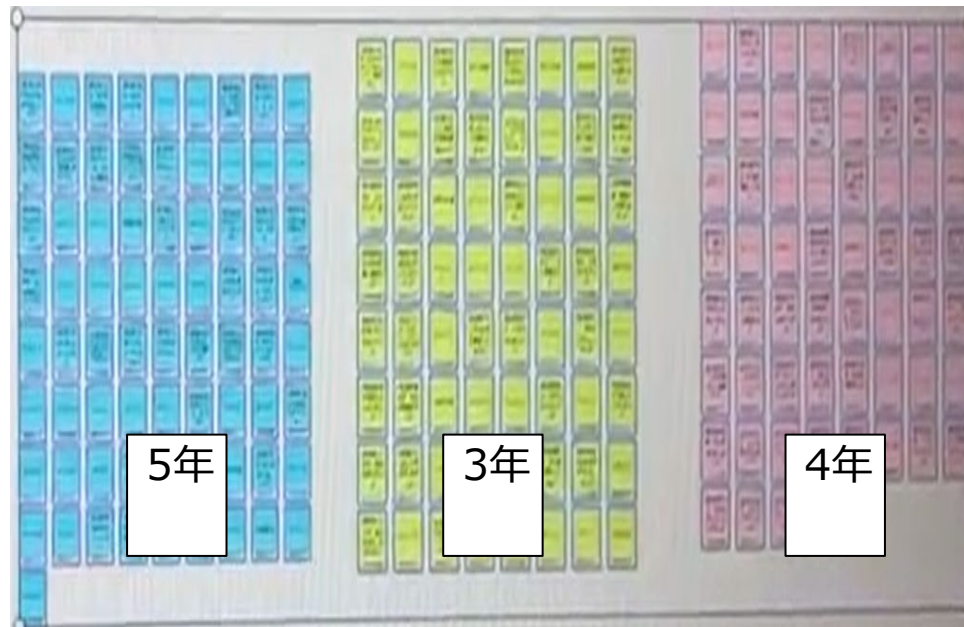
生成AIを活用して興味・関心を整理し、
クラブを設置する取組

クラブ活動

- 子供一人一人が、自らの興味・関心に基づき、活動したい内容を考えた上で、来年度設置したいクラブについて、学年ごとに異なる色のシートに入力し、クラブ希望調査の共有フォルダに提出する。
- 教師は、生成AIを活用し、類似した内容のクラブを整理・分類した上で、分類された児童の希望をもとに、環境面や安全面等の条件を踏まえ、クラブの設置の可否について検討する。



一人一人が興味・関心のあるクラブを投稿する



次年度設置したいクラブの希望を一覧にする



生成AIを活用して内容ごとにグルーピングを行う

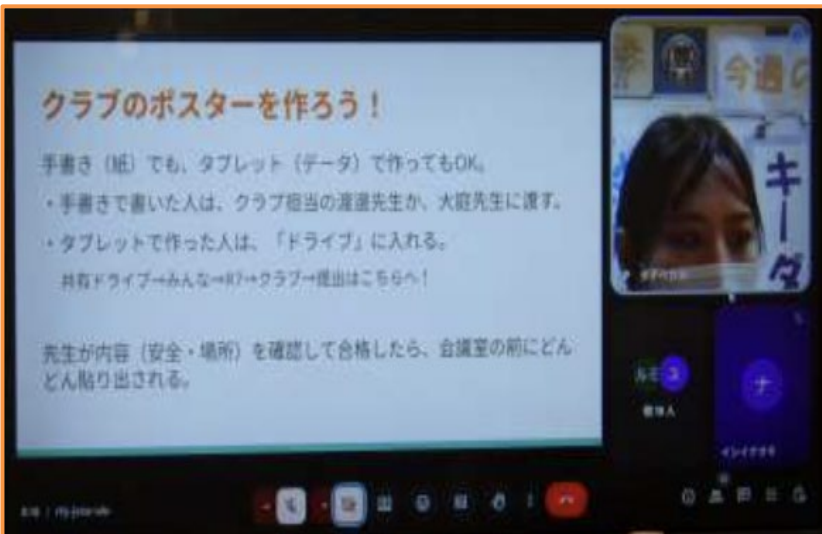
クラブ活動の充実に関する事例③

荒川区立峡田小学校

児童が発起人となってクラブを立ち上げる取組

クラブ活動

- 2月にクラブ設立説明会を行い、「設立の条件」等を示し、子供たちが、次年度に立ち上げたいクラブについて考える機会を設けた上で、「発起人」を募集。
- クラブの設立を考えた子供を発起人として、ポスターを作るなどしながら、同じ内容に興味・関心のある希望者を募る。
- 発起人を中心に話し合い、内容の整理や統合、活動場所の希望の調整を行い、3月にクラブ希望アンケートを行った上で、「設立の条件」などを踏まえて設立クラブを決定する。
- こうしたプロセスを通じて子供たちの主体性を活かした組織づくりにつなげている。



- <設立の条件>
- ① 12名以上集まっていること
 - ② 全ての学年から2名以上参加していること
 - ③ 全ての学年が交流できる活動内容であること

クラブ設立説明会にて担当教師から次年度のクラブについて説明する

<スケジュール>

月	経緯
2月	<ul style="list-style-type: none"> クラブ設立説明会 (発起人募集開始) クラブ設立申請締切 第1回発起人会議 ☆設立候補クラブ決定 第2回発起人会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> クラブ希望アンケート回答開始 設立クラブ決定
4月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回クラブ活動

- 【第1回発起人会議にて集まったクラブ候補】
- ・ダンスクラブ
 - ・バスケットボールクラブ
 - ・バドミントンクラブ
 - ・プログラミングクラブ
 - ・ベースボールクラブ
 - ・音楽クラブ
 - ・手芸クラブ
 - ・サッカークラブ
 - ・ラップクラブ
 - ・小説まんがクラブ
 - ・美術クラブ
 - ・遊びクラブ

調整があったクラブ

- ・ダンス・ラップクラブ (2つが合体)
- ・サッカークラブ (なし)

クラブ活動の充実に関する事例④

三沢市立木崎野小学校

児童の声から地域人材・資源を活用した取組

クラブ活動

- **子供たちへクラブ設置希望調査**を行い、**どんなクラブ活動があるとよいかの意見を募集**。子供たちや教職員の人数をもとにクラブの設置する数を決め、**地域の人材の協力も得ながら、できるだけ子供たちの思いを生かしたクラブ**を設置。子供たちは、より専門性のある地域の方から学ぶ中で、**好きや得意を伸ばすなど個性の伸長**を図るとともに、**地域への愛着度の高まり**にも寄与している。
- 地域の人材や資源の活用等については、地域の連携コーディネーターも関与して実施しており、子供たちが**学校運営協議会に参加し、講師の募集や依頼**することも検討している。



琴クラブ



なぎなたクラブ



依積み唄クラブ



生け花クラブ

地域人材を生かし、好きや得意などの個性の伸長を目指す



茶道クラブ

地域の資源を活用し、地域への愛着の高まりに寄与



あおぞら（工作）クラブ
～近隣の科学館と連携～



3. デジタル学習基盤の活用について

具体的論点（案）

1. 特別活動におけるデジタル学習基盤活用の考え方【補足イメージ1】

- 総則・評価特別部会では、デジタル学習基盤について、「主体的・対話的で深い学びを実現する基礎」として、「適切に活用した学習活動の充実を図る」ことを総則で示すことが検討されており、特別活動の特質を踏まえた効果的な活用の在り方を検討する必要。
- 学級・学校や自己の生活に関わる課題等に取り組むという特別活動の特質や、「社会創造」「自己実現」及びそれらの基盤としての「人間関係形成」の3つの視点に鑑みれば、特別活動においてデジタル学習基盤を効果的に活用することで、よりよく合意形成や意思決定を行ったり、協働的に実践したりする等、狭義の「学習」に留まらない多種多様な活用が期待できる。
- こうしたことを踏まえ、様々な実践の蓄積に照らして特別活動において効果的と考えられるデジタル学習基盤の活用イメージとその際の留意事項について、以下のとおり解説等で示してはどうか。

1. 多様な意見や考えの可視化

- **具体例**：フォームやデジタル付箋の活用等で、普段の話合いでは見えにくい意見や少数意見、意見の分布や変化を可視化する 等

2. 実践や振り返りの蓄積・共有

- **具体例**：活動計画や活動の記録、役割分担、実践の様子、振り返りなどを蓄積し、個人や集団の成長や変化を実感しやすくする 等

3. その他

- **具体例**：グループウェアにより協働のための集団内のコミュニケーションを円滑化する、地域への案内や活動の成果の発信を行う 等

2. 特別活動におけるAIの活用

- AIに関する検討課題として、第6回情報技術WGでは、「各教科等における効果的なAIの活用例を含む、具体的な利活用のポイントは、各教科等WGでの検討や諸外国の議論、学校現場における実践の蓄積等を踏まえつつ、指導要領改訂を待たずしてガイドライン等で対応する」とされている。
- また、特別活動におけるAIの活用については、例えば中学校の生徒会活動において、生徒会総会の議事録をAIを活用してまとめ、従来の手書きの記録やその後の整理を短縮し、効率的に運営する、いじめ防止月間に合わせた企画にあたり、企画の練り上げのサポートや、ポスターや動画の作成に活用する、といった事例があり、子供たちが自主的な活動を進めていく等にあたり有用な場合があり得ると考えられる。
- 一方、特別活動においてAIを活用する場合には、
 - ✓ 自己の生活や身近な社会を主体的・実践的に創造するという特別活動の特質を踏まえ、「合意形成」や「意思決定」の主体は、あくまでも子供たちが担うことや、実生活上の課題を対象とするからこそ、誤情報等の負の側面を十分に踏まえて活用すること
 - ✓ 「なすことによって学ぶ」との方法原理のもと、効率化が目的化することなく、リアルな体験や多様な他者との協働の中での学びを重視すること

といった留意点があると考えられ、こうした留意点を含むAIの活用について、各教科等における検討状況も踏まえつつ、柔軟に更新できる形で国が示すことを検討すべきではないか。

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用について

- 総則・評価特別部会では、デジタル学習基盤について、「主体的・対話的で深い学びを実現する基礎」として、「適切に活用した学習活動の充実を図る」ことを総則で示すことが検討されており、**特別活動の特質を踏まえた効果的な活用の在り方**を検討する必要。
- **学級・学校や自己の生活に関わる課題等に取り組む**という特別活動の特質や、「社会創造」「自己実現」及びそれらの基盤としての「人間関係形成」の3つの視点に鑑みれば、特別活動において**デジタル学習基盤を効果的に活用**することで、**よりよく合意形成や意思決定**を行ったり、**協働的に実践**したりする等、**狭義の「学習」に留まらない多種多様な活用が期待できる**。
- こうしたことを踏まえ、様々な実践の蓄積に照らして**特別活動において効果的と考えられるデジタル学習基盤の活用イメージとその際の留意事項**について、以下のとおり解説等で示してはどうか。

(※) あくまでも大まかなイメージであり、深い学びの実装に向け、子供の実態に応じた様々な創意工夫が制限されるものではないことに留意

活用イメージ	考え方	具体例
1. 多様な意見や考えの可視化	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の多様な意見や考えの可視化を通じて、合意形成や意思決定の充実につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ● フォームやデジタル付箋の活用等で、普段の話し合いでは見えにくい意見や少数意見、意見の分布や変化を可視化する 等
2. 実践や振り返りの蓄積・共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践や振り返りを蓄積・共有することで、実践の改善や次の活動への見通しにつなげたり、個人や集団の成長や変化の実感につなげたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動計画や活動の記録、役割分担、実践の様子、振り返りを蓄積する 等
3. その他 (AIを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団内の情報共有、家庭・地域との連携など、活動をよりよく進めるための基盤として活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループウェアにより協働のための集団内のコミュニケーションを円滑化する ● 学校HP等で地域への案内や活動の成果の発信を行う ● 企画の練り上げのサポートにAIを活用する 等

參考資料

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例

活動内容

活用事例

学級活動

- 事例① 多様な意見を生かす事前の意見共有 **可視化**
- 事例② 1人1台端末を活用した学級目標の合意形成 **可視化**
- 事例③ 端末を活用した「学習」の意思決定 **可視化**
- 事例④ 「共有枠」と「本人枠」を設定した振り返り **蓄積**
- 事例⑤ 端末を活用して意見の変化を即時共有 **可視化** **蓄積**

児童会・ 生徒会活動

- 事例⑥ 委員会活動の成果で課題をスライドにまとめ、課題解決を推進 **可視化**
- 事例⑦ 説明動画の事前配信による児童集会の活性化 **可視化**
- 事例⑧ 生徒会人権集会での生徒作成動画の活用 **可視化**
- 事例⑨ 児童による思いや考えの共有・蓄積 **蓄積**
- 事例⑩ グループ同士の振り返りを参照し合うことで、改善に生かす **蓄積**
- 事例⑪ 代表委員会の話合いの様子を全校に発信 **その他**
- 事例⑫ GIGA端末を活用した生徒会役員選挙の見直し **その他**
- AI事例① 生徒会総会の事務作業をAIにより効率化 **その他 (AI)**
- AI事例② 生徒会企画の練り上げや運営へのAIの活用 **その他 (AI)**

クラブ活動

- 事例⑬ 事前の打合せ・連絡・一人一人の意見を共有 **可視化**
- 事例⑭ 動画による振り返りと協働的な学び **可視化** **蓄積**
- 事例⑮ 主体的に活動し、互いのよさを認め合う **蓄積**
- 事例⑯ 小規模校での、他校や地域とのオンライン交流 **その他**

学校行事

- 事例⑰ 振り返りを全校単位で可視化し、行事の成果と課題を把握 **可視化** **蓄積**
- 事例⑱ 振り返りの蓄積により成長実感促す **蓄積**
- 事例⑲ 運動会の表現運動のイメージを動画で共有 **その他**
- 事例⑳ 特別支援学級における遠足の事前指導での安心感の醸成 **その他**
- 事例㉑ 専門高校における実践的な「デパート運営」の実現 **その他**

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①

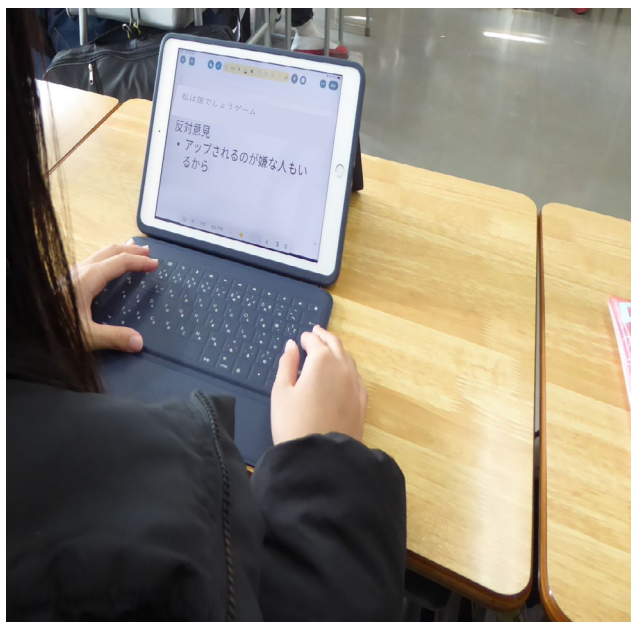
横浜市立西前小学校

多様な意見を生かす事前の意見共有

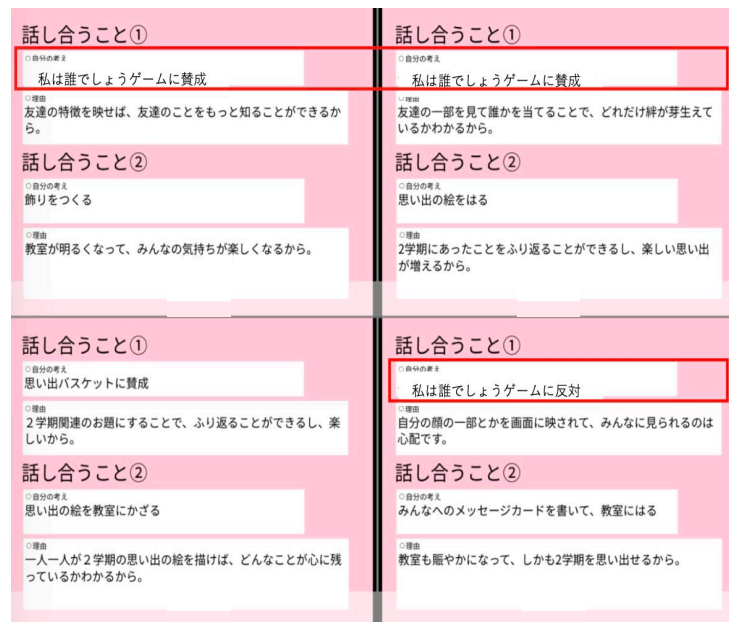
学級活動

可視化

- 一人一人が**当事者意識をもって**学級会に参加できるよう、**事前に自分の意見をタブレットへ入力**。無記名により、安心して自分の意見を表明。
- 意見をクラウド上で共有。**多様な意見に触れる**ことで、**同じ考えへの安心感**や、**異なる意見から生まれる新たな気づきのよさ**を実感。
- 特定の選択肢に賛成意見が多く集まる中、**心配する友達の意見を想起**。タブレットでその意見を確認し、**みんなが納得できる改善策を提案**。
- 全員が安心して参加できる内容**となるように話し合い活動を通して**合意形成を実施**。



事前に自分の考えをタブレットに入力し、クラウド上で共有



事前に集めた意見に心配と感じている友達の意見があったことをクラウドで再確認



賛成の意見を生かしながらも、心配な思いを解決するような改善策を創造して発言

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例②

東温市立重信中学校

1人1台端末を活用した学級目標の合意形成

学級活動

可視化

- 学級目標を決定する際、①全員の思いを可視化したい、②保護者の思いも聞いてみたい、③学級活動以外の時間でも取り組みたい、というねらいに対応できるよう、1人1台端末を活用。
- ①・②については、先に生徒一人一人の思いをテキストマイニングで可視化したものを、学級通信に掲載した上で、アンケートに回答してもらうように工夫した。
- さらに、学級活動の時間に、シンキングツールを用いて、学級の生徒全員の思いを分類・整理し、学級での話し合いを行った。最終的な候補になった意見について、アンケートフォーム上で最終プレゼンを行うことで、③実現につなげた。
- このようにして決まった学級目標について、全員で教室掲示を作成した。



特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例③

東村山市立東村山第五中学校

端末を活用した「学習」の意思決定

学級活動

可視化

- 学級の学習環境を整え、生徒一人一人が学習習慣を確立することが今後の進路選択や自己実現にもつながるとい
う思いから、**学級活動(3)Aとして、「自分に合った学習方法について考え実践しよう」という題材で授業を行った。**
事前アンケートを実施し、それぞれの悩みなどを**1人1台端末を活用して可視化することで、他者との悩みの共通
性について気付く機会とした。**
- アンケート結果を分析し、共通して挙げられた「意欲」「方法」「計画の立て方」の3点について話し合った。
その際、**1人1台端末の共有ボードを活用し、意見表明をしやすくすることで、様々な意見を吟味しながら考え
を深めることができた。**
- 3つのテーマについて、自分にあった「学習」を各学級の学習リーダーが代表で発表し、その様子を**ICT端末を活用し
て中継し、全学級の生徒が視聴できるように工夫した。**
- 最後は、生徒一人一人が、自分に合った「学習」について考え、実践に向けて意思決定する時間とした。

【学習に関するアンケート結果から】

【質問1】1学期の自分自身の家庭学習を振り返って



【質問2】家庭学習があまりできていない(または、できていない)理由について



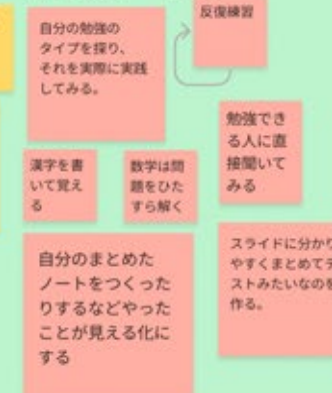
家庭学習アンケートの結果の可視化

2年2組 共有ボード

やる気を出すための工夫



学習の方法・やり方



意見の可視化と共有・分類



オンライン中継でプレゼン

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例④

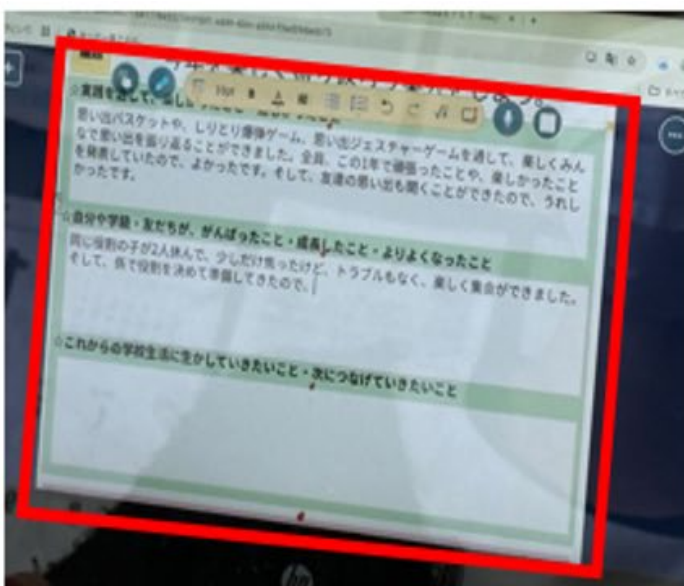
那覇市立城南小学校

「共有枠」と「本人枠」を設定した振り返り

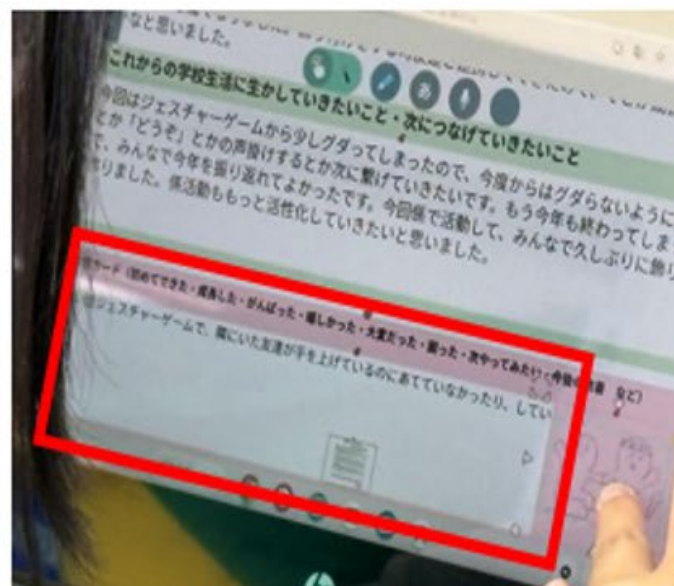
学級活動

蓄積

- 学級活動（1）で「2学期がんばったね会」を実践し、終了後にはデジタル学習基盤を活用して振り返りを行なった。
- デジタル学習基盤は、即時にお互いの考えを知ることができるよさがあるものの、自分が本当に困っていることや自分だけの気づきを積み重ねていくことで、次の活動につながることもあるため、振り返りのシートに「共有する枠」と「本人と担任しか見ることのできない枠」を設定した。
- 相談事などは必要に応じて担任が声を掛け、解決策を一緒に考えたり、次の活動に向けて意欲を高めたりしている。



実践に向けて自分が頑張ったことを入力しながら整理



他の人には言えなくても、大切なことや不安なことにも気付くことがある



デジタル学習基盤を活用してお互いのよさを共有

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑤

世田谷区立深沢中学校

端末を活用して意見の変化を即時共有

学級活動

可視化
蓄積

- 学級の生徒全員で取り組めるレクリエーションを決める話合いに際し、まず、**ICT端末を活用して事前に意見を出し合い、授業が始まる前に学級活動委員会にて意見の整理、調整を行った。**
- 授業では、**話合いの時間を区切り、その間で1人1台端末を活用したアンケートを実施。**司会の生徒は、**学級の生徒全員の意見がどのように変化したかをリアルタイムで確認しながら、話合いを進行した。**
- これにより、**各生徒の許容範囲が広がっていく様子が可視化**され、その時点での学級の生徒全体の意見を踏まえ、話し合うべきことがらを明確化して話し合うことができ、**みなが納得する形で合意することができた。**



1人1台端末を活用したアンケート結果の即時共有



変化するグラフの様子



話合いの記録もICT端末で行う 55

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑥

さいたま市立善前小学校

委員会活動の成果で課題をスライドにまとめ、課題解決を推進

児童会活動

可視化

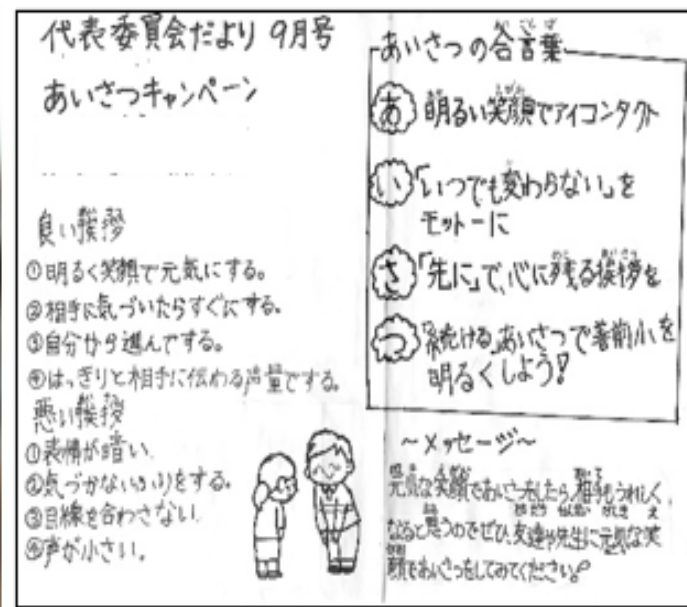
- 代表委員会では、学校生活を元気に過ごすことができるように「あいさつキャンペーン」を実施した。
- しかし、一定期間実施する中で、元気なあいさつが十分に行われていない状況が見られた。そこで、代表委員会が、「あいさつリサーチ班」と「あいさつ運動班」に分かれ、それぞれの班で感じた成果や課題をスライドにまとめることとした。
- 代表委員会では、これらのプレゼンテーションをもとに解決方法を話し合った。
- その結果、全校テレビ放送において、あいさつリサーチの結果を報告することとし、よりよいあいさつについて合言葉を作成し、呼びかけを行った。また、「あいさつすごろく」を作成し、子供たちが意欲的に取り組めるようにした。



プレゼンテーションソフトを使ってまとめることで、代表委員会の全員が成果や課題を共有することができた



写真や動画で問題を共有することで、課題を具体的に捉えた話し合いとなった



全校への共有すべき内容を、テレビ放送、新聞、あいさつすごろく作成など、様々な方法で呼びかけた

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑦

川越市立芳野小学校

説明動画の事前配信による児童集会の活性化

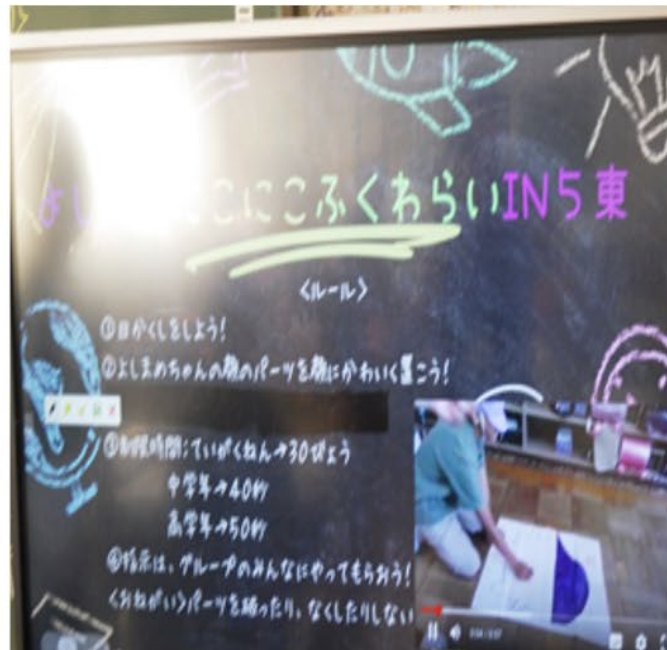
児童会
活動

その他

- これまで児童会集会活動を実施する際には、集会活動の時間内にルールの説明等を行っていた。しかし、**内容が十分に伝わらず、低学年や特別支援学級の子供たちが楽しめていない状況も見られた。**
- そこで、委員会担当の子供たちが**事前にゲームの趣旨やルールを説明する動画を作成し、クラウド上で共有する**ようにした。各学級において事前に視聴することで、**活動の様子を具体的にイメージでき、多くの子供たちが見通しをもって参加**できるようになった。その結果、集会当日を楽しみにする子供の姿が増えた。
- 説明する時間の短縮により、**活動時間を十分に確保することが可能**となり、効率的な集会活動の運営にもつながった。



誰にとっても分かりやすくなるよう、実際の活動の様子を具体的に撮影



参加する子供たちが、事前に説明動画を視聴することで、活動のイメージをもって参加



実践する時間を十分に確保でき、全員が満足感をもって集会活動へ参加

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑧

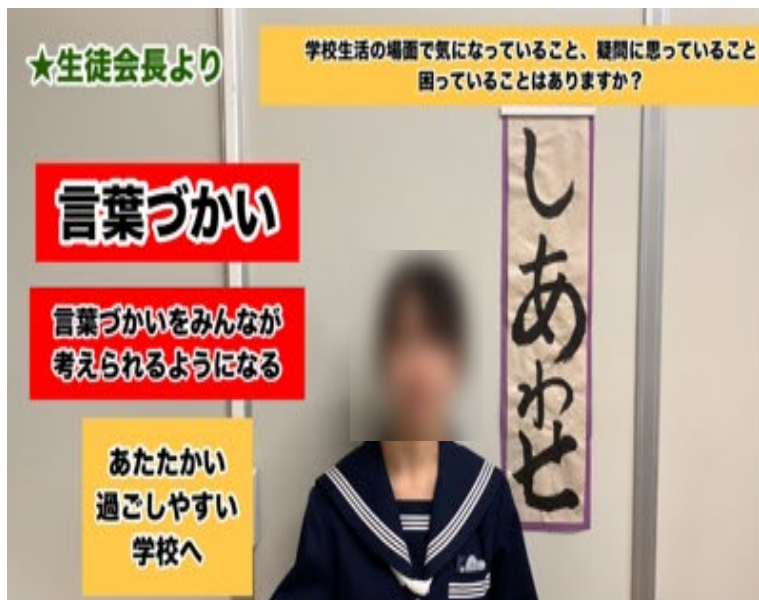
近江八幡市立八幡中学校

生徒会人権集会での生徒作成動画の活用

生徒会
活動

可視化

- **生徒の人権意識を高め、学校をいじめのない誰もが安心して過ごせる場とするため、生徒会が人権集会を企画。** 事前に、1・2年生は学級ごと、3年生は学年で、教師も含めて人権フラワーを作成した。
- 人権フラワーを作成する目的や作成手順について、**生徒会役員が5分間の動画をICT端末を活用して作成。** 全ての生徒が動画を視聴して、理解できるように工夫した。
- 人権集会当日は、生徒会本部・執行部による人権企画及び人権読み聞かせを計画。読み聞かせの最後には、「一人一人が大切にされる、あったかい気持ちになれる学校」にするためにはどうしたらよいか、全校生徒で考えた。
- **最後は、各学級・学年が作成した人権フラワーについて紹介し、そこに込められた思いや決意をそれぞれが発表し、共有した。**



人権フラワー作成の目的や手順を伝える動画



人権フラワーはスライドにして集会当日に投影



人権について考えるケーススタディ動画

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑨

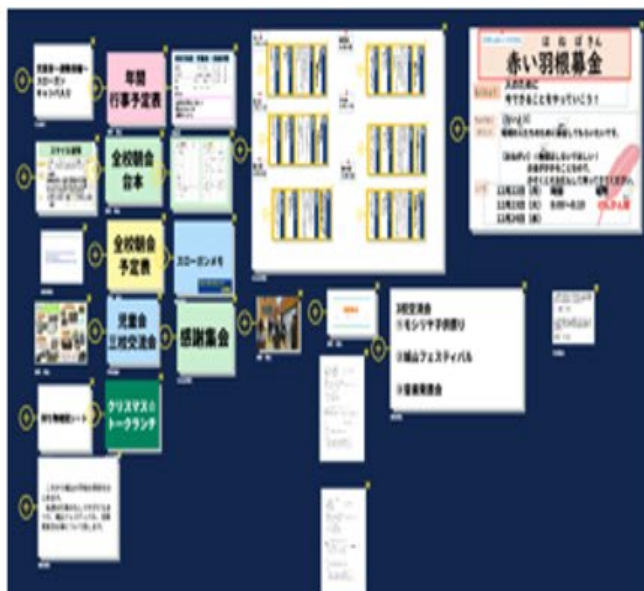
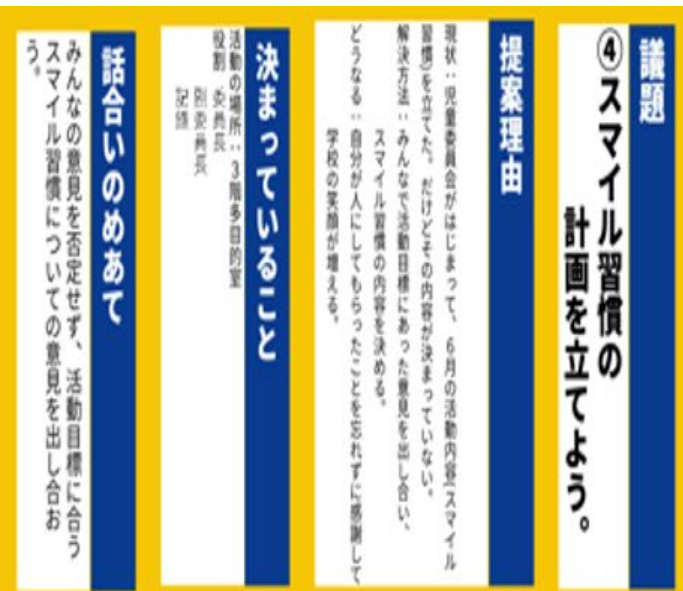
釧路市立城山小学校

児童による思いや考えの共有・蓄積

児童会
活動

蓄積

- ・ 委員会活動を行う前に、委員長等が「議題」「提案理由」「話し合うこと」に加え、「事前に考えてほしいこと・行ってほしいこと」を記入できるシートを作成し、各委員に配信。
- ・ 併せて、話し合い活動や実践活動を進める際に、事前に立てた活動計画や過年度に作成した資料を参照できるように、計画や資料を蓄積するノートも整備。
- ・ 各委員長等が共有した情報を基に、委員会担当の教師があらかじめ共同編集により補足・修正することで、事前の打合せ時間を短縮。
- ・ さらに、事前に計画案等を発信することで、教師主導から子供たち主体の委員会活動へと変化。



委員長等が中心となって、事前に話し合うことや計画を整理し、事前に共有することで、見通しをもって活動へ参画

事前に作成した活動計画や過年度の資料を共有・蓄積するノートを整備

デジタル学習基盤を活用することで、各委員会が目標の実現に向けて、一人一人が自分事として活動に取り組む

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑩

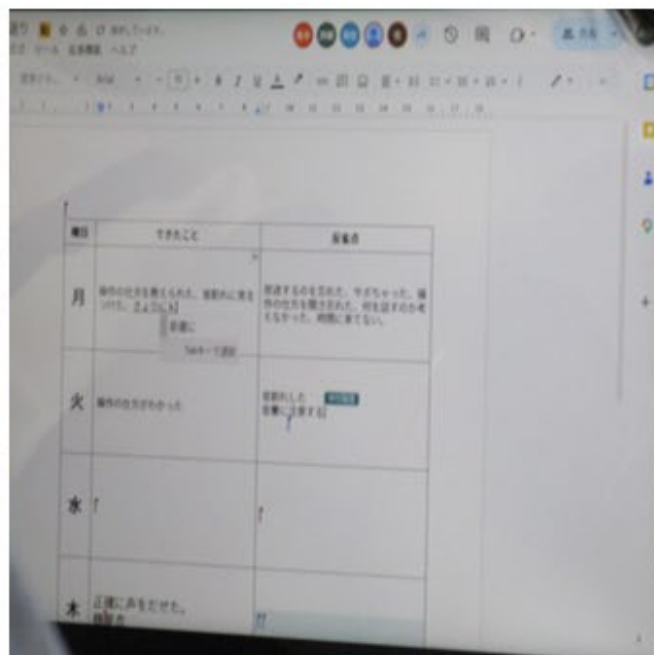
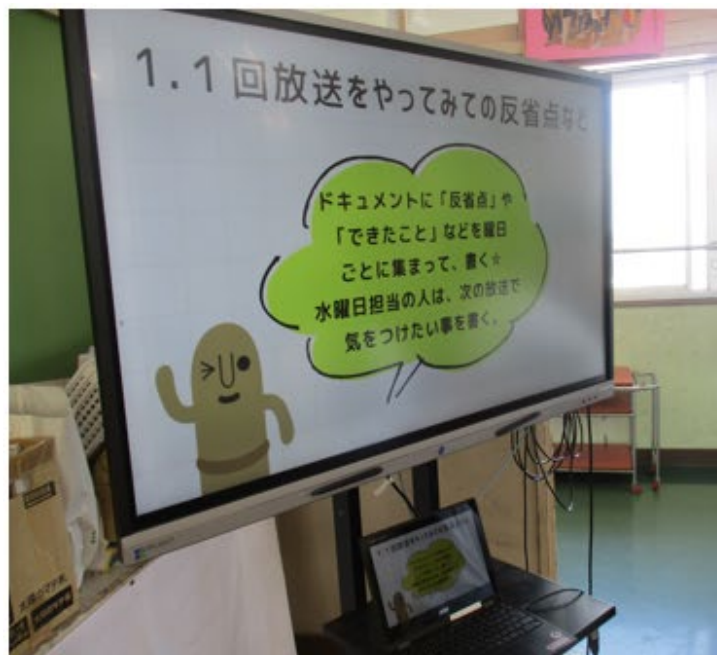
川越市立山田小学校

グループ同士の振り返りを参照し合うことで、
改善に生かす

児童会
活動

蓄積

- 委員会活動では、活動前に振り返りの視点（活動を通して「よくできたこと」「改善点」）を共有することで、課題意識をもって活動や振り返りを行うことができる。
- デジタル学習基盤により、他の担当グループの振り返りも即時に参照できるようにし、互いの活動状況や振り返りを比較・参照しながら、自分たちのグループの活動を充実させるための改善策について話し合い、実践する取組を積み重ねることで、主体性や活動への参画意識を育むことにつながっている。



委員会用の共有ツールで、振り返りの視点を事前に確認

グループごとに振り返りの視点に沿っての話し合い。共同編集ツールに振り返りを入力し、他グループの内容も参照

教師は児童の話し合いを見守り、必要に応じて活動の充実や改善につながる指導助言を実施

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①①

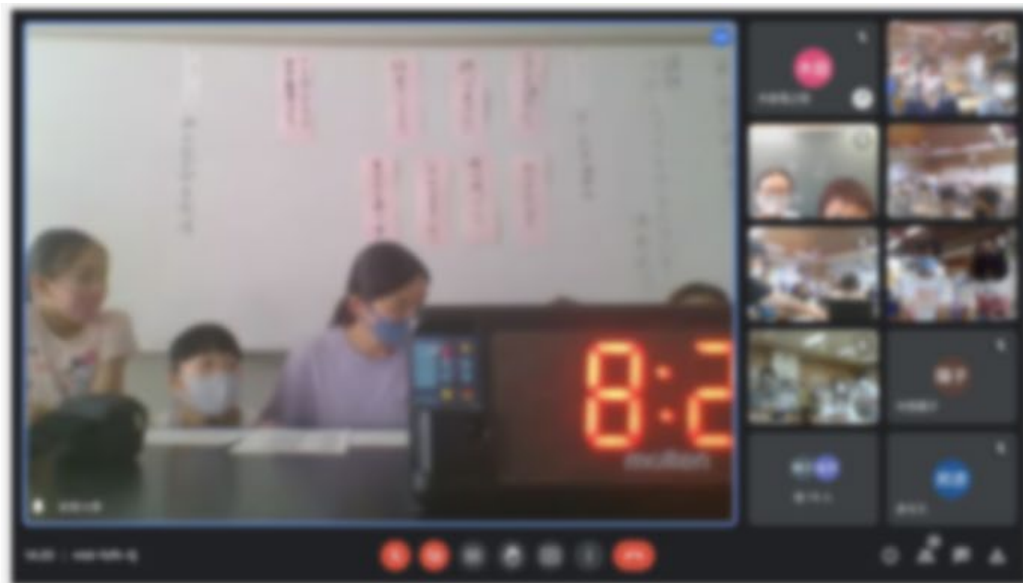
宗像市立河東西小学校

代表委員会の話合いの様子を全校に発信

児童会
活動

その他

- 代表委員会では、学校生活の充実と向上を目指して話合いを行い、決定した内容を全校の子供たちへ報告したり、学校生活をよりよくするような取組を実施。こうした活動の理解を深めるため、代表委員会の話合いの様子を全校で視聴できるようにした。
- これにより、代表委員会がどのような視点で学校生活を改善しようとしているのかを共有でき、学級活動への関心が向上。
- その結果、低学年からは、「私も早く高学年になって学校のために話し合ってみたい」という意欲が見られ、高学年からも「全校が見ていることを意識して頑張る」という主体的な姿が見られるようになっている。



代表委員会の話合いの様子を全校に発信し、学校生活向上に向けた意欲を高めている



画面越しであっても、自分たちの生活をよりよくするための話合いの様子を真剣に視聴61

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑫

高知県立嶺北高校

GIGA端末を活用した生徒会役員選挙の見直し

生徒会
活動

その他

- 生徒会活動の形骸化、生徒会執行部のなり手不足などの問題から、よりよい高校生活の実現のために全校生徒で「生徒会執行部の組織の見直し」や「生徒会役員選挙のルールの見直し」について検討。
- 端末を活用しアンケートを繰り返したり、より効果的な投票方法について合意形成したりした結果、単純多数決、決選投票の課題を確認し、ボルダールール、是認投票を採用。
- 端末を効果的に活用した選挙を実現するとともに、生徒会活動の打ち合わせや委員会会議における連絡調整も、端末の活用で効率的な運用になるなど改善が見られ、選挙の活性化を実現した。

16 会長選挙の電子投票画面（生徒端末）

会長選挙（定員1）＊
ボルダールール

	1位（4点）	2位（3点）	3位（2点）	4位（1点）
織田信長	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
豊臣秀吉	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
徳川家康	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
千利休	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

部外者に非公開かつ
秘密投票に対応

ボタンを選択するだけ
なので簡単

集計の手間やミスの
心配がない
（紙では困難）

17

20 選挙の活性化に成功

生徒会長選挙の競争倍率

令和5年度 1倍

令和6年度 3倍

令和7年度 4倍

令和7年度の選挙全体では

73人中14人が立候補

（1・2年生の2割弱）



21

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑬

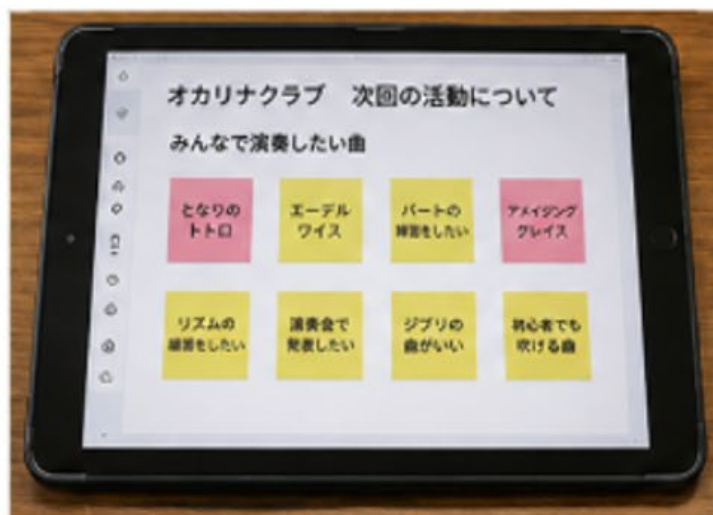
宗像市立自由ヶ丘小学校

事前の打合せ・連絡・一人一人の意見を共有

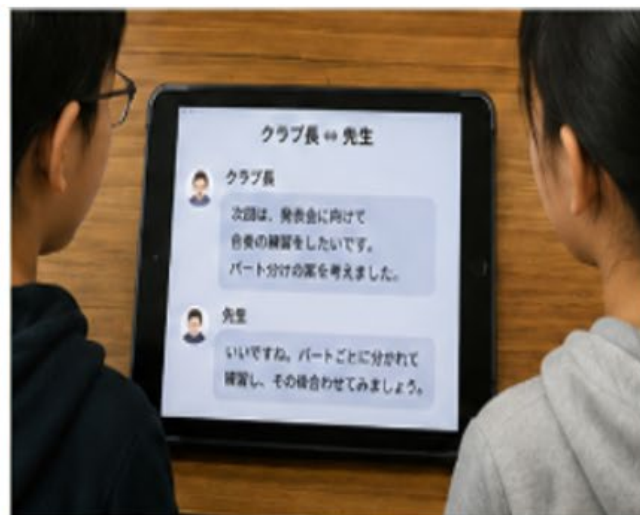
クラブ
活動

可視化

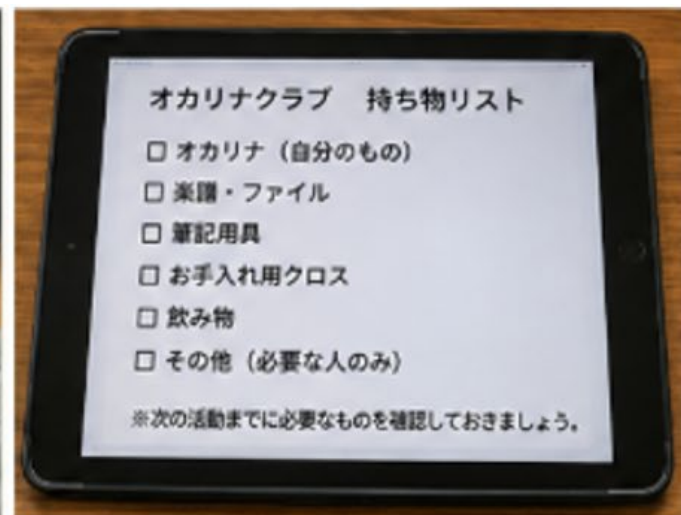
- クラブの活動時間を確保したいとの子供たちの意見を踏まえ、活動の最後に振り返りを行い、次回に向けた課題や取り組みたいことについて、デジタル学習基盤を活用して共有。
- これにより、話し合いに要する時間を短縮するとともに、一人一人が意見を出すことができ、活動への参画意識が向上。
- 次回の活動準備にあたっては、クラブ長等と担当教員が、事前にタブレットの共有ファイル上で随時コメントの記入や修正を行い、効率化を図っている。
- 従来の放送によるお知らせ等と比較して、いつでもどこでも確認できるようになり、活動の見通しをもつことにもつながっている。



次回の活動に向けて、演奏したい曲や練習内容等について意見を出し合う



クラブ長と担当教員が、活動計画や役割分担等について事前に打合せを行い、効率的に準備



連絡事項を端末で共有し、いつでも確認できるようにすることで、主体的な活動につなげる

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑭

大田区立立新井第五小学校

動画による振り返りと協働的な学び

クラブ
活動

可視化
蓄積

- 室内スポーツクラブでは、楽しさとともに技能の向上を目指したいという子供たちの思いから、審判などの係を担うチームの役割として、試合の様子をタブレット端末で動画撮影。
- 振り返りでは、撮影した動画を共通の視点として、よかった点や改善点について話し合う中で、異年齢の子供たち同士でのプレイの仕方や工夫の共有や、課題の克服に向けた取組を互いに認め合う様子が見られている。



試合の様子を動画で撮影



撮影した動画を見ながら、よかった点や改善点を話し合う



改善点を意識しながら、楽しさと技能の向上を目指す

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑮

ふじみ野市立大井小学校

主体的に活動し、互いのよさを認め合う

クラブ
活動

蓄積

- 調理・手芸クラブでは、全ての子供たちが主体的に活動できるよう、グループごとに共同編集が可能な活動計画書を作成。
- 全ての学年が在籍しているため、下学年の意見も大切にしながら、調べたことや実際に取り組んだ際のコツなども書き加えていくことで、よりよい活動にしたいという意識が高まっている。
- 制作した作品は写真に撮り、作品の特徴や工夫した点などのコメントを付してクラブ内で鑑賞。互いの取組を認め合う機会を設けることで、活動への意欲が一層向上。



担当グループが話し合い、「次の活動内容」をクラウド上で共有

羊毛フェルト	
イメージ図(写真とか貼ってね)	作り方
	①羊毛を手である程度まとめ②ちょうどいい力で刺す(同じ力加減で刺し続ける)③顔、鼻、耳などの細かい部分は小さいかたまりから始める コツ 刺す力を強くしすぎない。
材料	
羊毛(自分の好きな色)(キットでもオッケー)、羊毛針(ニードル)	

活動計画書にコツなどを書き加えることで、主体的に活動を運営



蓄積された活動計画書を参照、教え合い

みんなで作った作品です!!

みんなでたくさん作ったね! 素敵な作品だったので、みんなで見合おう!



ケーキのマスコットがとても上手だね。今度作り方教えてね。

丸くなるコツを試してみたら、きれいに丸くなってうれしかったな。目玉焼きも一緒に作れてうれしかったよ。

作品や振り返りを共有し合うことで、互いに認め、活動への意欲を向上

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①⑥

宗像市立大島学園

小規模校での、他校や地域とのオンライン交流

クラブ活動

その他

- 小規模校のため、互いのことをよく知っている一方で、人間関係が固定化し、多様な人と関わる機会が少ないことが課題。そこで、子供の声を踏まえ、デジタル学習基盤を活用し、他校で同様の活動に取り組んでいるクラブの子供たちと関わる機会や、専門家と交流する機会を設定。
- これにより、少人数では気付きにくかった考えや活動の工夫に気付いたり、自分たちの取組を紹介する中で、そのよさを再発見したりすること、また、地域の専門家とオンラインでつながり、質問したり、アドバイスを受けたりする取組につながっている。



意見を可視化しながら、活動内容を決める話し合いを実施。
その中で、他校で活動する友達や専門的な方に質問したいという声があがった。



他校との交流や専門的な知識をもつ方々と交流を行い、活動を充実。

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①7

大分大学教育学部附属小学校

振り返りを全校単位で可視化し、
行事の成果と課題を把握

学校行事

可視化
蓄積

- 避難訓練の事前学習を訓練時にどのように生かすことができたかという視点で、一人一台端末のアンケート機能を活用し、振り返りを実施。
- 全校で統一した質問項目については、円グラフ等で可視化するとともに、個人の成長や成果・課題については、記述回答により把握。
- 子供たちだけでなく、教師もアンケート機能を使って振り返りを行い、担当教師が集約をし、成果と課題を健康安全部等で検討した上で、次回や次年度の避難訓練に生かしている。
- 子供たちは振り返りの内容をもとに、日常生活での行動も改善しようとしている姿が見られる。



津波を想定して高台へ避難する訓練を実施

Q3 火災や津波が起きた時の避難経路と避難場所をしっかりと確認することができましたか

棒グラフ 円グラフ



回答者数 291

全校で統一した質問については、円グラフ等で可視化

去年よりもおもしろい出来たし去年の課題の静かが出来たのが良かったです。課題は、ちょっと前が空いたりしてからそこが課題だと思いました。

前回より、全体的に《し》が出来ていたのいいと思います
前回の自分は少し気が張っていたこともあり今回の避難訓練では気を抜かず出来ていたのいいと思います。
《し》は出来ましたが無音などはあまり気付けられませんでした市民の人のことを考え行動していたので私が見た限りは良い高台避難訓練ができたと思います。

がんばったことは特に公の力を意識したこと
課題は少ししゃべったから次は頑張りたいです

地域の人が行ったり、学校に帰ったりしていた時、家の前に立っていたり、犬の散歩をしていて、その人たちが自らあいさつをすることができたり、学校の右側通行などのルールも実行できました。

全校の子供たちの成果と課題を集約できるため、
子供の声を生かして次の計画を立てることが可能

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例①9

熊本市立榎木小学校

運動会の表現運動のイメージを動画で共有

学校行事

その他

- 運動会における表現運動については、苦手意識をもつ子供も見られるなか、踊り方を撮影した動画を活用し、視聴しながら動きを確認して練習。再生速度を調整することで、ゆっくりとした動きに合わせて練習するなど、一人一人のペースに応じた取組を可能としている。
- 踊っている様子を自分や友達等が撮影し、それを見ることで、自分の動きを客観的に捉えることができるようになっている。その結果、どこを直すとよいのかを具体的に理解し、よりよい動きへとつながっている。



踊り方を撮影した動画を視聴しながら、動きを確認



タブレットを使って苦手なところを繰り返し視聴



事前に自分のペースで練習をすることで、安心して全体練習に参加

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑳

熊本市立榎木小学校

特別支援学級における
遠足の事前指導での安心感の醸成

学校行事

その他

- ・ 特別支援学級の子供の中には、環境の変化や初めての活動に対する不安を強く感じる場合があり、遠足等の行き先について事前に理解を深め、安心して活動に臨めるようにするため、教師の実地踏査の際に、現地の様子が伝わるように写真や動画を撮影。
- ・ 子供たちはこれらの映像を視聴しながら、建物や設備、道路の状況、周りの景色などを確認する。教師は、必要に応じて留意事項を伝えながら説明することで、具体的なイメージをもてるように工夫。



遠足の行き先について動画等を視聴し、現地の様子を確認



事前学習で様子を見たことで安心感が醸成

特別活動におけるデジタル学習基盤の活用事例⑳

岡山県立岡山東商業高校

専門高校における実践的な
「デパート運営」の実現

学校行事

その他

- 東商デパート（全校）では、1～3年の各ホームルームがそれぞれ1店を運営。生徒が分担し、仕入れから販売、広告・店舗設計までを業者と折衝しながら進めるなど、商業の学びと往還しながら、店舗（ホームルーム活動）での合意形成、東商デパート（全校）での合意形成、生徒個人の意思決定を繰り返す学校行事として実施。
- 一人一台端末の導入で合理的・効果的な合意形成が図れるようになるとともに、より実社会の実践に近いデパート運営を可能としている。

令和7年度 第32回 東商デパート 販売商品一覧

1-1	株式会社 徳川酒造 (徳川酒造、イオンモール岡山店)	1-2	株式会社山崎ハイテクリーナー (コストレジャー)	3-1	早稲葉学園 西原製菓 クラカアグリ株式会社	3-2	株式会社天海堂 岡山本店	3-3	アヲキョウ株式会社 福野堂 福野本店	3-4	and green tea	3-5	株式会社サンコープレジャー	3-6	株式会社ニートほしゆち	3-7	デニッシュたい焼きの成りひ	3-8	株式会社 川上食品																								
1-3	株式会社東地スポーツ	1-4	株式会社岡山南産物	1-5	株式会社山崎製菓株式会社	1-6	竹久第二製菓自営株式会社	1-7	有限会社はんこく製菓	1-8	株式会社トンの岡山製菓所	2-1	新庄村で暮らす	2-2	株式会社 大岡 (日本一のおたけし高麗)	2-3	株式会社チャエラ (ヘルメス手巾)	2-4	岡山ゴム株式会社	2-5	株式会社岡山中央製物	2-6	広東製菓 山形株式会社	2-7	SUZUKA (花屋イベント販売)	2-8	有限会社 大地製	3-1	株式会社 川上食品	3-2	HONGTAR YELLOW	3-3	株式会社 カワノ食品	3-4	有限会社平成製菓 (徳島のにぎひめし山産物)	3-5	株式会社数野ぎょうぎ製菓	3-6	わらび製菓門店 門屋岡山店	3-7	株式会社デンソー岡山工場	3-8	株式会社天海堂 (つばきコッペイ)



特別活動におけるAIの活用事例①

※ リーディングDXスクール 生成AIパイロット校の事例より

いわき市立内郷第一中学校

生徒会総会の事務作業をAIにより効率化

生徒会
活動

その他

生徒会総会での活用の様子

<これまで>

- ・生徒会総会時に記録係の生徒が議事録を紙媒体に記録する
- ・後日、議事録を整理し全校生徒に共有
 - ▶ 生徒・教員の負担が重い



【議事録】

生成AI搭載の音声認識アプリを活用し、議事録をまとめた。

- ▶ 音声を再度聞き直して議事録を作成
- ▶ 聞き漏らしを補填
- ▶ 議事録の内容をわかりやすく整理

各委員長の手元には端末



生徒会長

端末を用いて議事録をとる

議事次第を見ながら議事進行



議長

原稿や資料を確認



記録



役員

生成AI搭載の音声認識アプリを活用することにより、従来行われてきた手書きの記録及びその後の整理の時間を短縮することができた。効率的に学校行事を進めることができた。

特別活動におけるAIの活用事例②

※ リーディングDXスクール 生成AIパイロット校の事例より

久喜市立鷲宮東中学校

生徒会企画の練り上げや運営へのAIの活用

生徒会
活動

その他

いじめ防止強化月間にあわせた活動を企画を立案

生成AIが相談相手として
企画の練り上げをサポート

①生徒朝会での呼びかけ

生徒会長の呼びかけ原稿の校正と練り上げに活用

②いじめ防止ポスターの作成

Canvaでポスターを作成し、校内に掲示

①いじめ防止動画の作成

動画の場面設定を相談、提案をもとに自校にあわせた
具体的な場面を設定し、動画を作成。

生徒の作成した動画



動画撮影のために、どのような場面が効果的か生成AIのアドバイスと、自分の学校の課題を照らし合わせ、本校の現状にあわせた具体的な場面やそのセリフを考え、撮影することができました。

例) SNS・うわさ など

生徒の感想

- ・ 検索よりも時短になる。
- ・ 質問が不十分だと期待した回答にならないのが難しい。
- ・ 自分の聞きたいときに質問や相談ができる。
- ・ 参考にして自分の考えを出すのに効果的だと思う。